

国立国語研究所学術情報リポジトリ

鹿児島県川辺郡笠沙町片浦方言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003023

方言録音資料シリーズ ー 3

鹿児島県川辺郡笠沙町片浦方言

上 村 孝 二 編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」（代表者大石初太郎）の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、鹿児島大学教授 上村孝二 が担当した。

も く じ

収録地点とその方言について	2
表 記 に つ い て	4
本 文	
1. 火事の思い出	5
2. 運動会に参加をすすめる	13
3. 結婚式の今昔	22
4. 蓬 だ ん ご	36
5. 八百屋さんと一婦人との対話	42
6. 祝儀：孫の誕生をよろこぶ	58
7. 地 名 伝 説	66
8. 網主の奥さんと漁夫	73
注	83

収録地点とその方言について

1. 収録地点名： 鹿児島県川辺郡笠沙町片浦

2. 収録地点の概観

野間半島部の良港の漁村である。戸数280戸で大部分の住居は山の傾斜面に密集する。耕地水田乏しいために農産物に見るべきものはない。部落の生活は漁業（近海）に依存しているが、近時漁獲が少なく、さびれた感じ。交通は南薩鉄道の加世田駅と野間池との間に戦前からバスの便があり、最近は鹿児島市直行のバスも運行されている。買物は加世田市にも行くが、商店の仕入れなどは鹿児島市へ出かける。枕崎方面へも鉄道を利用して買物にでかける。漁船は枕崎方面とも往来する。小中学はこの部落にはなく手前の小浦にある。役場もそう。

3. 収録した方言の特色

野間半島（大津町・笠沙町から成る）方言は薩隅一般から見ると、やや変わっている。むしろ私の所謂半島南端方言（枕崎・穎娃・開聞・喜入など）に属する。今回の臨地調査（話手の言葉を主にした）によって鹿児島地方には聞かれない特徴をあげて見る。

音韻……①語中・語尾のk・tの有声化は微弱ながら残っている。老年にあるが、個人差もある。②鹿児島地方では短い母音が原則的だが、この方言では長音化の例がかなりある。多くは強調形と思ってよいようだ。③アクセントは重起伏調なのが戦前の私の調査でわかっていたが、割に鹿児島式化しているようだ。若い婦人（話手）には枕崎式ア（高低が鹿児島と逆な上に重起伏式）がかなりきかされたが、この人の発音について疑いをいだけ一座の連中はいなかったから、枕崎式アと鹿児島式アに基づく重起伏調とがもと混在していたのか。なお要研究。④ガ行鼻音は予期に反してきかされなかった。

付：四つ仮名の区別は鹿児島中心部では行なわれないが、片浦方言では老人の坂上氏（男）だけはよく区別していた。

文法……①セッカラ（為べきだ）、イケッカラ（行くべきだ）のような南端方言的なもの。②終助詞（質問）にカナとかカオがある。③「ねえ」を「ニー」というのが、児童にきかされた。（南端方言的）

語彙……バカ（麦粒腫）、イッソ（常に）、ポッナ（かぼちゃ）、アラクッ（片づける）、スマン（いけない）、マメクジ（蝸牛）、子ヲモツ（出産する）、メテワケ（漁獲の配分）カチ（魚群） マズミ（日没寸前） アサイ（浅瀬）以上4つは漁村語彙。

4. 地点選定の理由

自由会話の中に薩摩半島南端方言的なものがどれほどあらわれるか、又どれくらい鹿児島語化しているか、などを知りたいと思った。

表 記 に つ い て

(指定の字母以外に使用した字母,および使用した補助記号)

特 に な し

1. 念を押す意の終助詞 *na, nai* は前文と離して表記した。
理由: 次のような語末の *na* と区別するためである。
ikaNna (行かなければ)
ikutokana (行くのかね), *kana* は一語
ikuna (行くのですか)
2. 念を押す意の *o, o:* も *l* の *na, na:* に準じて表記した。但し, *gao* のように *ga* などと密着したものは離さない。
3. 断定の意の *zja, zjaNsu, zjaNSa*, 又 *goaNsu, gozaNsu* なども自立語的なので前文と切り離して表記した。
4. 薩隅方言の *goaNsu* の類は標準語のゴザイマスより丁寧度が低いので「です, であります」などと訳した。これを「ございます」と訳したのは「ありがとうございます」の例だけ。

1. 火事の思い出

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦
金宮荘(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居歴)
H	林 達郎	男	大正 6年生	商業	0~13才在郷 14~18鹿児島市(旧制中学) 19~21在郷 21~29熊本市(兵役) 30~現在 在郷
Y	山中 房子	女	12年生	農業	0~16才在郷 17~21神戸市 22~現在 在郷

解説：戦前この部落でおこった大火のことを回想し、その恐怖について語る。

H a n n a g a q c u i a t a j a o m a n s a e i q k a i k o : k i k o k a i -
あのね ほんとに 私は あなたに 一回 こう きこうかい

c i o m o o i k o q g a a q t a t a d o : N a n : k o k o n h u t o k a
と 思っ て い る こ と が あ る の だ が、 あ の こ こ に 大 き な

k w a h i g a a q t a i n a :
火事 が あ っ た ね。

Y h a i
はい。

H a j a d o q k a r a i k e n a h u i s i t e d e t a j a q t a t o k a o
あれは どこから どんな 風に して 出たの でしたか。

Y a h i k o n h a r a o t e r a n s o b a n o
あそこの ほら お寺の そばの ね。

H h a : h a : h a :
はあ、 はあ、 はあ。

Y a h i k o n i a n o : o i n e b a s a n n o o j a s i t a d o g a h a r a n a :
あそこに あの お稲婆さんが おられたろうが ほら ね。

H a o r a q t a g a o r a q t a g a
あ おられたよ、 おられたよ。

Y hai ahikon iekara detatandon o:
はい あそこの 家から 出たんですが ね。

H hun
うん。

Y de ano kinpenwa hara moemositatan don o: ima
で あの 近辺は ほら 燃えましたんですけど ね 今
saisjo na:
最初 ね。

H hai hai
はい はい。

Y sono ka¹⁾ higa hora hidamani naqte an hara
その 間 火が ほら、 火玉に なって あの ほら
ahikose: tonmositade sakame²⁾ sakase:
あそこへ 飛びましたので 坂面(の) 坂の方へ。

H so:na
そうかい。

Y hai
はい。

H ataja na: cjo:do son toka omaja³⁾ heitaide:
私は ね、 ちょうど その 時は あなた、 兵隊で

to:kjon na ano gaqkoi oqtajo⁴⁾ wage:kara oma-
東京の ね あの 学校に いたのよ。 自宅から あな

ja kataura kwazida zensjo:su sinruimo mina
た、 「片浦 火事だ 全焼す 親類も みな

jaketa cjute denpoga kita mon jaqde na:
やけた」 といって 電報が 来た もの だから ね。

Y hai
はい

H hiqtamagaqte omaja ma: iqki: cjutaicjon
びっくりして あなた まあ すぐ 中隊長の

tokoi itate kju:ka:negaio siq morote na:
所に 行って 休暇願いを して もらって ね。

Y hai
はい。

H ma: sju: senmae ma imakara kangurea sa sju:-
まあ 終戦前, まあ 今から 考えれば ね, 終
senmae jaqtataqdonkaraN
戦前 だったんだけども。

Y hai
はい。

H sentomo atainanda zjo:kjo:wa sitannaqtataq-
そんなのも 私なんか, 状況は 知らなかったん
doN na iqki kju:kao moreagete na:
だが ね。 すぐ 休暇を いただいて ね, 6)

Y hai
はい。

H sohite to:kjo:ka(r)a modoq kitataqcio
そして 東京から 戻って 来たんだったよ。

Y e:
ええ。

H hosite modoq kitatoga koke citatoga cjo:do
そして 戻って 来たのが, ここへ 着いたのが ちょうど
baN jaqta mon jaqde saqpai zjo:kjo:wa waka-
晩 だった もの だから, さっぱり 状況は わか
rantaqde sa:
らないのだもの ね。

Y hai
はい。

H hosite modoq mitaja omaja waigen-sja kuraN
そして 戻って 見たら あなた, 7) 自分の家の人々は 蔵の
nake boso:qci
中に ほんやりと,

Y hai
はい。

H oqkahan^{to} omaja: otoq^{ja}no omaja: suwaq^{jo}-
お母さんと あなた、 お父さんが あなた、 坐ってお

raqtaqde na: hoide mo: ban^{no} koq jareja wa-
られるんで ね。 それで もう 晩の こと だから わ

karantaqde mo son^{mama} e: iron^{na} kocu ma ka-
からないので、 もう そのまま いろんな ことを まあ 語

taqte neta kocja netataq^{do}n na:
って 寝た ことは 寝たんだが ね。

Y hai
はい。

H akuihija omaja okiqte mita tokoiga waigeⁿ
翌日は あなた、 起きて 見た ところが、 自分の

ija: nahi o: aⁿ hutoka waigeⁿ eno omaja ja-
家は 無し。 ね あの 大きい 自分の 家の あなた、 屋

siqga gaq^{cui} komankamo komankataqde sora na:
敷が とても 小さいも 小さいのだから それは ね。
8)

Y hai
はい。

H nda eno ato cjuwa keⁿ moⁿ zjaqdoka: i cute
おや、 家の 跡と いえは こんなもの だろうかと 言って、

ko: site mireja omaja nan^{zjai} katauraⁿ ewa
こう して 見れば あなた、 何にも 片浦の 家は

nakataqde sora
無いんだもの それは。

Y hai
はい。

H ma agen tamagaqta kocja nakaqta ataja omai-
あんな 驚いた ことは なかった 私は。 あな

taqmo tamagai jaqtarodai na: hoⁿkokote:
たちちも びっくり なさったろう ね、 ほんとに。

Y aⁿ hara rjo: ho: ma: hutatokoikara ko himo
あの ほら 両方 まあ ふたところから こう
9)

higa na:
火が ね、

H e: huN
ええ、うん。

Y himotoga jaqta goto naqtato goande hara
火元が だった ように なったの ですから ほら。

H N: ho(si)te ki:te mitaja:
うん、そして 聞いて 見たら、¹⁰⁾

Y hidaman naqte tonde itate o:
火玉に なって 飛んで 行って ね。

H o:
おお。

Y sokon iekara mata konda sitase: ko: moete
そこの 家から また 今度は 下の方へ こう 燃えて

¹¹⁾
kimasitadesjo
来ましたでしょう

H e:
ええ。

Y de rjo:ho:kara ko: moetato goande o
で 両方から こう 燃えたの ですから ね。

H zjaqtatoja na:
そうだったんだ ね。

Y hai
はい。

H hoide: na: ju go aqtade akuihi: ki:te mita-
それで ね (両親が)言うよう だったので 翌日 聞いて 見た

ja sono oigen usitoi hara ano otomoobasan
ら、そのう 私の家の 後ろが ほら あの お友小母さん

cute oqte mada kajaega aqta aqde hara
と言って、居て まだ 茅家が あった んだよ ほら、

Y hai
はい。

H aN kora na:
あの頃 ね。

Y hai
はい。

H soide na: gaqcui hino ma:ja nandEN oigenaNka
それで ね、ほんとに 火の 廻りは、 たしか 私の家などは

hajakaqta jona hu: jaqtagao
早かった ような 様子 だったよ。

Y ha:i
はい。

H hoide na: sodoqmo naimo toidasanzi: nandEN
それで ね、 諸道具も 何にも 取り出せないで、 たしか

mo jaqtokaqto ko: nigejaqta jona hu: jaqta:
やっとのこと こう 逃げなされた ような 様子 だった。

Y ha:i kazega hosite kicu go sitade hara na:
はい、 風が それで ひどい でしたから ほら ね。

H zjaqtatoja na:
12)
そうだったのだ ね。

Y hai
はい。

H son kazega mata kon sitado:iga moeta toqto
その 風が また この 下通りが 燃えた 時と

iqdoki nanka konro nomantaken hose: kazega
同時に、 何だか 今度は 野間岳の 方へ 風が

kawaqtataq cuwai na:
変ったんだ という ね。

Y hai
はい。

H hinonikuqna mon jaqcijo aiga mo: saisjokara
ひにくな もの だよ。 あれが もう 最初から

son aqcin hose huicjoreja kora na:
あもう あっちの 方へ 吹いておれば ころ ね。

Y ha:i
はい。

H keN hutoka kwazimo naraNtaqtataqdonkaraN
こんな 大きい 火事にも ならなかったんだけど。

Y zjasito na:
そうですの ね。

H honnokote hanna tamagai jaqtaga minna ge:N
ほんとに あなた、 びっくり なさったよ。 みんな どんなに

sugdokaici omoq donka maq kangeq mirea ka-
するだろうって 思って。 けれど まあ 考えて 見れば 片

tauramo nai jaqtai na: aikara koqci o:
浦も 何 だったよ ね。 あれから こっち ね。

Y hai
はい。

H zuga jaqtai site. ma: imazja kora keN site
13) 漁が あったり して まあ 今では くら こんな にして

mo: iemo jaqpai taqte ma jokaqtaro na:
14) もう 家も やはり 建って まあ よかったよ ね。

Y hai
はい。

H zuga aqtade na:
漁が あったから ね。

Y jasito na:
そうですの ね。

H ha:i..... jaqpai kwasici nareja mo gaqcui mi-
はい。 やはり 火事と なれば もう ほんとに 身

nokega jodaqga kora hinobunna dai zi senna
の毛が よだつよ ほら。 火だけは 大事に しなれば

sumantejo
いけないよ。

Y hinno ano hiruN goq nasita hara na:
15) あのう 昼の ように になりました ほら ね。

H zjasitadodai na: mo atainanda sa. mo so:zomo
そうだったでしょう ね。 もう 私なんか そう もう 想像も

cuka:N de omaitacja: ikena hude son nigeja-
つかない。 では あなた達は どんな 具合で 逃げなさ

qta.monkao jaqpai
った のか やはり。

Y atainanda to:goasitade hara na:
私なんかは 遠かったですから ね。

H ha:
はあ。

Y himotoga to: goasitasi ja ano jakemohantande
火元が 遠い。 でしたし、¹⁶⁾ あのう 焼けませんのですから、

H huN
うん。

Y hoide nige kata ¹⁷⁾ nigemohantandonkaran jaqpai
それで、 逃げませんでしたけれど、 やはり

nimocuba moqdahikata goasitai na:
荷物を 持ちだしかた でしたよ ね。

H jaqtarorai na:
そうだったろう ね。

Y usiton towaka tokoise: himo kimohan tokoi-
後ろの 遠い ところへ、 火も 来ません ところ

se: na:
へ ね。

H jaqtaga sora mo
そうだったよ それは。

Y

H a: asa nanzigoro cinkwa sitatokana
ああ、 朝 何時頃 鎮火 したのかね。

Y asan nanzigoro goasitadoka.i mada hiru jake
朝の 何時頃 でしたらうか、 まだ 昼 焼けて

ositai na: aqpai moegositai na:
いましたね。 やっぱり 燃えていましたよ ね。

H e:
ええ。

Y jaqpai hiru·goro zja na: son ka:i¹⁸⁾
やはり 昼ごろ だ ね。 その かわり,

H a: so:na
ああ, そうかい。

Y jaqpai si oq tokoi(ga) goasitadon¹⁹⁾
やはり している ところが ありましたけど。

H so:na
そうかい。

Y hai
はい。

Y e:
ええ。

2. 運動会に参加をすすめる

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦
金宮荘(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

H 林 達郎 男 大正 6年生 商業 既 出

Y 山中房子 女 〃 12年生 農業 〃

解説: 町の顔役である男性が小学校の運動会に婦人会としても参加するよう女性に頼む、女性は
この次は踊りなどけいこして参加するようにしたいという話。

H konmaia omaja: gaqkon kwaiga aqte cjoto
この前は あなた, 学校の 会が あって ちょっと

huzinkaino koqde aqtaqdo omaja:
婦人会の ことで あったぞ あなた。

Y hai
はい。

H siqkai ki:ciqkjai na:
しっかり 聞いておきなさい ね。

Y hai
はい。

H aN: sinoqno na:
あのう 椎木の²⁰⁾ ね。

Y hai
はい。

H kaqkosantaqjara: kosaqzjamaN ara macusitado-
克子さんたちやら、 高崎山の あれは 松下ど

nna nancju hutokao hara
んは なんという 人かね ほら。

Y kazukosanna
和子さんですか。

H a: a: kazukosantaqga: gaqkon omaja: monno
ああ、ああ、 和子さん達が 学校の あなた 門の

maede hajasan (hajaq)san iqtoq maqcjai maqc-
前で 「林さん 林さん ちょっと 待ちなさい 待ちな

jai cjute ijai mon jaqde naigoqkaoci ataimo:
さい」 と 言われる もの だから、 何事ですかと 私も

tamagaqte tomaqtataisa:
びっくりして 立ち止まったのさ。

Y hai
はい。

H sositaja na: hajasisan kondon aN: undo:kai-
そしたら ね。 林さん 今度の あのう 運動会

niwa dositen sora katauraN huzinkaino-simo
には どうしても、 片浦の 婦人会の連中も

ano dete moro goto: omanSa·N hokara hanasi
あ の う 出 て 貰 う よう に あなたの 方 から 話

siq tamohankaci: tanomarete omaja:
し て 下 さ い ま せ ん か て 頼 ま れ て あなた。

Y e:
ええ

H e mata omaitaja: son kondontomo nanzjai
え, また あなた達は, 今度のも 何にも

mada kataijocja oijarantoka
まだ 語り合っては おられないのか。

Y i: ja²¹⁾
いいえ。

H bojahika ne: sa hutoka buraki oqte son kkatā-
ぼんやり ね, それは 大きい 部落に いて 片

uran huzinkain deraN cu kogga ai mon jaqcuka
滞の 婦人会が 出ない という こと が ある もの なの か。

son: ciqta ko:²²⁾ daika iman kwaicjowa dai
少しは こう。 誰か 今の 会長は, 誰

jaqtokao
なのかい。

Y namai juwana sunmohantoke
名前 言わなければ いけないのですか。

H so: na: o: sora: kikkjareə: Nnja²³⁾
そう ね。 おお それは, 聞きなされば, いいえ。

Y ima hora ai goandeja atainanda kaicjo: cjuwa
今は ほれ, あれ ですもの。 私なんか 会長 というのは

kimahanzi o
決まりませんで ね。

H ha
は。

Y iqqagecu ko: taide siq ondeja hara
1カ月 交替で して いますから ほら。

H ha: ha:
はあ、 はあ、

Y kaicjo: o na:
会長を ね。

H aq soide o kongeqno to: banna daikao
あ、 それで ね。 今月の 当番は 誰かい。

Y NR

H nancina
何だって。

Y jaqpai namai ju:mositona
やはり 名前を 言いますの。

H juqkaqsjareja siqcjoijaq toka ora sitan mon...
教えてくれれば 知っておられる 時は。 私は 知らないもの…。

Y ……namaeci ataimo wakahanna kora
名前って 私も わかりません ほら。

H naina wakarazina
何です。 わからないでかい。

Y hai
はい。

H sa da-re so: danno surea jokarokai na: jamaN-
さあ、 誰に 相談を すれば よからうかい ね。 山の

24)
cjanNi juq mirokai na:
父さんに 言って 見ようか ね。

Y hai
はい。

H aijara aN-sjujarani: nankakanka kataq miro-
あれやら あの連中やらに 何かいろいろ 語って 見よう

kai
かい。

Y hai
はい。

H sosite sora dositen^N omaitaqno jaqpai waqka
そして ほれ、 どうしても あなた達が やはり 若い

25)
taq jaqtaqde: cju:si^Nni naijarana sumanci
方 だから 中心に ならなければ いけないと

omotaqde

思うので、

Y hai
はい。

H kondodoma: dejareja joka sen^N senna na: kodo-
今度こそ 出られると よい。 そうしないとね、 子供

Nga muinakataqcio.
が 可哀そうなものね。

Y zjasito na:
そうです ね。

H hoka^N tokoino na: a^N. huzinkaino-si^N: dejaqte
外の ところの ね。 あのう 婦人会の連中が 出られるのに

omaja: wagen^N buraqkara dejara^N mon^N jaqde
あなた、 自分の 部落から 出なさん もの だから、

Y hai
はい。

H hara kodonno-siga na:
ほれ、 子供の連中が ね、

Y hai
はい

H tozi^Nnaka jona hu jaqdo
さびしい ような 様子 だよ。

Y hai
はい

H de: seqkaq son: ko:ku^N a^N kanbu^N-si^Nmo sen^N
で 折角 そのう、 校医の あの 幹部の連中も そう

jute ijaqtaqde
言って 言われるので、

Y hai はい。

H kotohidoma mo: sa ataijara sora mo: hasigu-
今年こそは 私やら そら もう 橋口

qjara site mata: ko: soraNnu site moqkakeq
やら して また こう 相談を して もちかけて

kuqde: 来るから、

Y hai はい。

H son toka sora omaitacimo do-se tanomanna
その 時は あなた達にも どうせ 頼まなければ

naraN koqmo deqtaqde na: ならぬ ことも 出るのだから ね。

Y hai はい。

H ioka hui site hitoq kotohidoma mo: unDo:kai-
よい 様に して 一つ 今年あたり 運動会

ni odoi sitateq kurejai na: にお呉れ ね。

Y hai keikoni igmohaNnara hora
はい。 稽古に 行きませんか。 ほら。

H a: mata ²⁶⁾ kekowa ²⁷⁾ seqkara na:
もちろんさ、稽古は しなくちゃ ね。

Y hai はい。

H keko cjutaci: so: na: jaqpai sa: hiwa sigocu
稽古と 言っても そう ね、 やはり ね 昼は 仕事を

site baNmo isogahikai jaqtaqdonkara
して 晩も 忙しくあられるんだけれども。

Y hai はい。

H soja ma dokon-simo sen sijaqtai kote: omaja:
それは まあ、何処の連中も そう なさるのだ もの あなた。

Y nenni iqdono undo: kai goande: hamecukemohan-²⁸⁾
年に 一度の 運動会 ですから、 頑張らなければなりま
nara omaja
せん あなた。

H katauran-sibaqkai sijaqtojanasito
片浦の連中だけ なさるのじゃないし、

Y hai
はい。

H siga naran cu kogga ai monka omaja mukasja
でき ない という ことが ある ものか、 あなた。 昔は

omaja katauran huzinkaino-siga gjokurinko:-
あなた 片浦の 婦人会の連中が 玉林校区の

kun huzinkaino-si: ri:do si oiijaqtaqde sa:
婦人会の連中を リード して 居られたから ね。

Y zjasito na:
そうですね。 ね。

H wagen oqkahankara kiq mon zjaqtataiga
うちの お母さんから 聞く もの だったのよ。

Y hai
はい。

H zundarejannacio ciqta siqkai sijaranka
だらだらなさるなよ。 少しは しっかり なさらないか。

Y hamecukemosakonda:
頑張りませんなら 今度は。

H jokana
いいかい。

Y hai
はい。

H e: honnara
ええ それなら。

Y hatareq²⁹⁾ keikoni itate
精出して 稽古に 行って、

H N
うん。

Y de: mata hokan-si:mo juqkasemohannara:³⁰⁾
そして また 外の連中にも 教えませんなら。

H sen siq kurejai
そう して 下さい。

Y hai
はい。

H soide: honnara ma ataiga mata: kjuasitan
それで それなら ま 私が また 今日 明日の
uci sora an-si:tomo banasu site o
うちに あの連中とも 話を して ね。

Y hai
はい。

H de: moitacu goq suqde
それで 盛り上がる ように するから。

Y hai
はい。

H ma: oman-sa:mo sora mo ima ataikara kiqujaq-
まあ あなたも ほら もう、今 私から 聞かれ
tataqde sora na:
たから ほら ね。

Y hai
はい。

H sosite ma: waga tomodaqno: son kino ota-
そして まあ 自分の 友達の その 気の 会った

siniden o:
連中にも ね、

Y hai
はい。

H ma: kotohidoma kora keN site: seN site ma.
まあ 今年あたり こう して そう して

ano: sodaNno uketataqde jarowa cju: guwaini
あのう 相談を 受けたのだから 「やろう」 という 場合に

ciqtodeN ko. ku:kio cukui itaq kuijahanka
少しでも こう 空気を 作って 行って 下さらんか。

Y hai
はい。

H so surja: joq kotohidoma: joka hui iqtara-
そう すれば ³¹⁾ 今年あたり いい 按配に 行くのでは

senka
ないか。

Y hai
はい。

H na
ね。

Y hai
はい。

H naNcjutaci mo: omaitaqga cju: siN jaqtaqdeja
何と言ったって あなた達が 中心 だからよ

sa:
ね。

Y hai
はい。

H na
ね。

Y hai
はい。

H seN siq kurejai honnara mo: tanonde sora na:
そう して お呉れ。 それでは もう、 頼むから そら ね。

Y hai
はい。

H hai
はい。

Y hai
はい.....。

3. 結婚式の今昔

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦
金宮荘(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
K	仮山長太郎	男	大正2年生	町役場職員	0～現在まで在郷但し、2,3か月の程度で季節的に長崎県・山口県島根県に出稼(20才～30才)
M	前田ナツエ	女	明治42年生	商業	0～15才 在郷、15～20 鹿児島市、20～21 福岡市、21～36 京城、36～在郷

解説：昔の結婚式はこっそりと取りおこなわれ、花嫁にもいたずらをするものであったが、今はさることなく旅館などで披露もかねて行うようになった。話手(女)の最近身内でとり行われたことをとり入れながら話は進行している。

K nacjan koncja
夏ちゃん、今日は。

M konniciwa
今日は。

K doqka iqkjasitana
何処か 行かれたのですか。

M hai
はい。

K ohanna konogora jo:icirokun-gate naika gozu-
あなたは この頃は 洋一郎君方に 何か 結婚

Nke: kwankeide iqqjaqtaci kiqmositadonkaraN
の 関係で 行かれたと 聞きましたけれども。

M ha-i soino koqde na: atai ima sintaN tosiozi-
はい。 その ことで ね。 私は 今 下の 藤四おじ

sankate iqmositato:
さん方へ 行きましたのよ。

K so:na
そうですか。

M hai
はい。

K joka kocu sijasita na:
よい ことを なさいました ね。

M okagesa:de joka koq gozasita
お蔭さまで よい こと でした。

K waqze: konogoronta: ko: hade naqte: mukasi-
すごく この頃のは こう はでに なって 昔

to simoseja igenka cigo eq cumonga
と しますと、 なんだか 違っている と言いますか。

M seN goasito
そう ですよ。

K ikena huni imanta: sijaqto goahika
どんな 風に 今のは なさるの ですか。

M ma: na: mukasa hora ano wagenmoino goziunke
まあ ね。 昔は ほんら あのう 自分辺の 結婚

cuwa mo: nakadaqdoNno modoke itate
33)
というのは 仲立ちさんが 貰いに 行って

K hai
はい。

M kurejaq tamohankaci
34)
下さい ませんかと

K hai
はい。

M agemonde cijanseba:
差上げますよ と言われれば、

K hai
はい。

M sosite hora mata konda an ojan-sito nakada-
そして ほら また 今度は あのう 親の方々と 仲立ち

qdon to o:
さんと ね、

K hai
はい。

M socuto sakanao moqte iqkjai mon goasitagao:
焼酎と 肴を もって 行かれる もの でしたわね。

K zjasita ne-zudonno gozunke cute na: ju mon
そうでした。 ねずみどんの 結婚式 といつて ね 言う もの

zjasitai
でしたよ。

M ha:i nezunno gozumuke cute gozjunkeo sijaq
はい。 ねずみの 結婚式 といつて 結婚式を なさる

toka mo koqsoito
時は もう こっそりと

K hai
はい。

M hitoni wakaran go wakaran go koso koso koso
人に わからない ように、 わからない ように、こそ こそ こそ

koso
こそ、

K hai
はい。

M ano cureke itate
あのう 連れて 行って、

K hai
はい。

M soi mata huton-sja o:
それに また 人々は ね。

K hai
はい。

M koso koso doqkara kiqkaziqjaqtajara koNnja:
こそ、 こそ、 どこから 聞きかじりなされたやら 今夜は

ahike gozumukega aq cuga cute
あそこに 結婚式が ある そうだ と言って

K zjasitato na:
そうでした ね。

M zoro zoro zoro zoro minna hogomekara mike
ぞろ ぞろ ぞろ ぞろ みんな 障子の穴から 見

kite:
来て、

K hai
はい。

M amado: simete:
雨戸を しめて、

K zjaiositato³⁵⁾ na:
そうでしたよ ね。

M koqsoi sijai cumoinotoga mi:Nna koso koso
こっそり なさる つもりなのが みんなこそこそ

mo zoro zoro cute kite mike kite na:
もう ぞろ ぞろ 付いて 来て、 見に 来て ね。

K zjaiositai na:
そうでしたよ ね。

M akena gozunke goasitadogao:
あんな 結婚式 でしたらうがね。

K hai sosite ma naraq tocja maq cjoqte
はい。 そして まあ 並んで 途中は 待って いて

M ha:i
はあい。

K i s u n a g e t a i z a k o : n a g e t a i
石を 投げたり, 雑魚を 投げたり,

M h a i
はい

K n i w a t o i t o b a s e t a i s u i m o n z j a q t a i n a : o m o s i -
鶏を 飛ばせたり する もの だったよ ね。 面白

t o k a m o n z j a q t a c i o
い もの だったよね。

M o t o k o n - s j a n e q k a r a ³⁶⁾ m i q n o h a t e h a h i g o : n a g e -
男の連中は みんな 道の 傍に はしごを 投げ

c u k e t a i
つけたり,

K h a i
はい。

M t o : j a n a r a n g o q s i t e
通られ ない ように して

K h a i
はい。

M k o m a r a s e g o i j a s i t a d o g a o :
困らせていましたでしょう。

K z j a s i t a t o : n a :
そうでしたよ ね。

M i m a : s o i k a r a m i r e b a i m a d o q n o - s j a h i r a k e t e :
今は それから 見れば, 今時分の人々は ひらけて,

K z j a n g a
そうですね。

M s o g e n w a r u s a m o s i j a h a n g o q n a s i t a d o n
そんな 悪さも なさらない ように になりましたけど,

K h a : i
はあい。

M n a : s o n g o z u n k e n j o : s i k i g a m a t a s o r a a n o ³⁷⁾
ね。 その 結婚式の 様式が また

38)
musubu site moroke iq toki
結びを して 貰いに 行く 時

K zjanga na:
そうです ね。

M morote kimonseba o: mata ano konda sakanato
貰って 来ますと ね, また 今度は 着と

socuto moqte itate
焼酎と もって 行って,

K hai
はい。

M konda mata son imade ju: hora ano juino:kin
今度は また そのう 今で いう ほら あのう 結納金

cutooba na:
というのを ね。

K hai
はい。

39) 40)
M mo iqzuimo magoioijasitadogao:
もう いつまでも 待っておられたろうがね。

K zjaisitai na:
そうでしたよ ね。

M sosite ijoi jo jemesanga kaeqte kite koikara
そして いよいよ 嫁さんが 帰って 来て, これから

keqkonsiki suq cju maen hini naqkara minna
結婚式 する という 前の 日に なってから みんな

41)
juigonkinnu moqte iqgoijasitade hora na:
結納金を もって 行くものでしたから ほら ね。

K hai hai
はい。 はい。

42)
M soidon konogorowa mo: ano: mata icibudewa
だけど この頃は もう あのう また 一部では

mada sono sikio sijaq tokoimo goandonkaran
まだ その 式を なさる 処も ありますけれども

- hora
ほら。
- K hai
はい。
- M ano ima: mo: musubi cute
あのう 今は もう 結び と言って、
- K ha:i
はい。
- M osakanato: sjocuto moqte iqmondogao
お肴と 焼酎と もって 行きますでしょう。
- K hai hai
はい、はい。
- M son toq mo cuideni ano juino:kinmo cjan to
その 時 ついでに あのう 結納金も ちゃんと
- ataja mo osameq kimosita
私は もう 納めて 来ました。
- K e:
ええ。
- M konda:
今度は。
- K sora joka koko sijasita
それは よい ことを なさいました。
- M hai
はい。
- K mukasja o: an miaikeqkon cjuna monde
昔は ね、あのう 見合結婚 というような もので、
- M hai
はい。
- K abike ikanka moroke iqkjaqtaga⁴³⁾ cija
「あそこに 嫁がないか (仲立人が)貰いに 行かれたよ」 と言えば、
- M hai
はい。

K mo sijonasi iq mon zjaqtadon
もう 仕様なし 嫁く もの だったけれども。

M hai
はい。

K imanta an renaikeqkontoka nantoka cuito:
今のは あのう 恋愛結婚とか なんとか 言うのを

simosi cumosai na:
すます そうですよ ね。

M sogen goasito
そうんな ですよ。

K zigota mon cjuwa na imadoqno-sinta:
違った もの だよ ね、 今時分の連中の。

M 笑い

K hedonka: N mu⁴⁴⁾ mukasi goansai na:
けれども むずかしい です ね。

M hai
はい。

K (ho)nnokote: nakadaqmo sora noqsjahanme⁴⁵⁾
本当に 仲立ちも それは つらいことでしょう。

M hai
はい。

K iqgoro sijaqtahika sosite
いつ頃 なさいましたか それで。

M ataiga joiciro: mo na:
私の 洋一郎も ね。

K hai
はい。

M an waga sukide:
あの 自分が 好きで、

K hai
はい。

M gesite^N obasa^N a^N ko⁴⁶⁾ moroq kuijara^N kaci
どうしても 伯母さん あの 娘を 貰って 下さらないかと

jute
言って、

K e: zjahicuro:
ええ、そうでしたらう。

M hai
はい。

K hiqcuq oqtatai na: honnara na:
くっついて おったんだ ね、 それなら ね。

M ha:i
はい。

K e:
ええ。

M wagadoga mo hanasiote:
自分たちが もう 話し合っ、

K e:
ええ。

M ano gesite^N na: keqkonnu su go aq cju mo^N goa-
あのう どうしても ね、 結婚を した い という もの です

Nde
から、

K hai
はい。

M waga sukinara mo sogen se ciute
自分が 好きなら そんなに せよ と言って、

K a: so:na
ああ そうですか。

M sosite taqkonimo kataijute
そして 辰子にも 語りあっ、

K ha:i
はい。

M ano tojozisaNmo mo joka koq jaqci jute ku-
あのう、豊二さんも もう 「よい こと だ」と 言って く

rete
れて、

K hai
はい。

M sosite hora mo moroke iqmositaja
そして ほら 貰いに 行きましたら、

K hai
はい。

M mukon-simo mata iqki tamosite hora aigate
向うの方々も また すぐ 下さって ほら、 ありがたい

koq jaqtaci
こと だったと。

K e: sora joka koq zjaqtai na:
ええ、それは よい こと でした ね。

M soide mo okagesa:de na joka anbe goasitato:
それで もう お蔭さまで ね、 よい あんばい でしたのよ。

K soide dokode sijaqto goahika gozunkewa:
それで、 何処で なさるの ですか 結婚式は。

M konda na:
今度は ね。

K hai
はい。

M imadoka hirakete:
今時分は ひらけて、

K ha:i
はい。

M ano kanemijaso:de rjo:hoq⁴⁸⁾
あのう 金宮荘で、

K e: asukodena:
ええ、 あそこですか。

M rjo:ho:kara joqte
両方から 寄って。

K rjo:ho:kara joqto goahika
両方から 寄るん ですか。

M hai
はい。

K are:
あれっ。

M sosite mo: otokon emo onagon emo minna
そして もう 男の 家も 女の 家も みんな。

K hai
はい。

M ninzuo kataijote
人数を 語りあって、

K hai
はい。

M sosite kanemijaso:de mo iqsjoni:
そして 金宮荘で もう 一緒に、

K iqsjoni na:
一緒に ですか。

M ano asukode sakazugmo sasete
あのう あそこで 盃も させて、

K hai
はい。

M sosite mo hiro:enno imide iqsjoni suqto goa-
そして もう 披露宴の 意味で 一緒に するん です

Nga
よ。

K hiro:enmo iqsjoni goahika
披露宴も 一緒に ですか。

M hai
はい。

49)
K e: imadoNnote; cigocjoNsai na:
ええ、今時のほ 遅っていますね。

M hai
はい。

K soidonka:N jaqpai kandan jahikamo na: imado-
そうだけれども、 やはり 簡単 ですかね 今時

Nnotoga
のが。

M kantande:
簡単で、

K e:
ええ。

M mo: minna hora wage:de sug toka negkara
もう みんな ほら 自分の家で する 時は、 みんな

50)
rjoricukui ano zuicukui gaqcui minna kuro:
料理 作りに 大変 みんな 苦勞

simondogao:
しますでしょう。

K huqka miqka kakai mon zjasito na:
2日 3日 かかる もの ですよ ね。

M hai soidonkaran mo: tada kimonnu kite ahike
はい そうですね、 もう ただ 着物を 着て あそこに

suwareba
坐れば、

K hai
はい。

M mo: iqki goqsomo dete o:
もう すく 御馳走も 出て ね。

K zjansai na:
そうですね ね。

M benrina jononakai naqte kimosita
便利な 世の中に なって 来ました。

K mendo simohanto na:
面倒 しませんです ね。

M hai
はい。

K hosite nanzikanbaikai kakai mon zjahikao
そして 何時間ばかり かかる もの ですか。

M ma: joiciro:ga toka nizikara goasitade
まあ 洋一郎が 時は 2時から でしたから、

K hai
はい。

M sjasinnu ucusitai sjasin ucusi zikanga ka-
写真を うつしたり、 写真 うつしに 時間が か

kasite o:
かりまして ね。

K e:
ええ。

M soide ano jaqpai mo dete makasi toka sinko-
51) 52)
出て まいります 時は、 新婚

Nrjoko:se: deq makasi toka: gozi sugiq osi-
旅行へ 出て まいります 時は 5時 すぎて いま

ta
した。

K o: mo sen suqto gowahika
おお もう、そんなに するの ですか。

M hai
はい。

K imadonnuta⁵³⁾ uqci gocij⁵⁴⁾onsai na: waqze jokata⁵⁵⁾nsai
今時分のは 違っていますよ ね。 大変 結構ですよ

na: mata⁵⁵⁾
ね。

M hiwa mi hikakasi mo usuguro naikakeqkara deka-
日は 短い、 もう うす暗く なりかけてから 出掛

kete iqmosite na:
けて 行きまして ね。

K e: sora joka koq zjansai na:
ええ、それは よい こと ですよ ね。

M kanemijas o: N uezui minna miokuqte tamosite
金宮荘の 上まで みんな 見送って 下さって、

sora ano tanohika rjoko: se: dete makasitade:
それは あのう、楽しい 旅行へ てて まいりました。

K e: kogēn cigo mon zjandeja na:
ええ、こんなに 遠う もの ですよ ね。

M gaqcu i josju gozasita o:
ほんとに よろしい でした わ。

K e: sa: mo: otecuqkjasicuro:
ええ、それは もう 御安心なさったでしょう。⁵⁶⁾

M hai oaigato mosjagemosu
はい。 ありがとう ございます。

K mo: tojozisantaqja taqkosantaqnimo jorosju
もう 豊二さんたちや 辰子さん達にも よろしく

mosjagejaq tamosi
申上げて 下さい。

M hai oaigato mosjagemosu⁵⁷⁾
はい。 ありがとう ございます。

K atainandomo kagenagara jorekoq oi kata goansa
私なんかも 蔭ながら よろこんで います。

M hai
はい。

4. 蓬だんご

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

M 前田ナツエ 女 明治42年生 商業 既出

Y 山中房子 〃 大正12年生 農業 〃

解説：路上で蓬つみから帰る女に出会い互に蓬だんごを作って他郷の子供などに送ってやらなければならない話を交す。

M husakosa: N

房子さん。

Y hai

はい。

M konniciwa:

今日は。

Y konniciwa

今日は。

M waqze:ka⁵⁸⁾ tenege kabuqte kagai⁵⁹⁾ karute doke
あれまあ 手拭 かぶって かがり せおうて どこへ

iqkjasitakao

行かれたんです。

Y huqcunke inmosita

蓬つみに 行きました。

M e: mo sangaqno seqmo cikazuqmonde na: aN
ええ、もう 3月の 節句も 近づきますから ね。 あのう、

Y hai

はい。

M huqga mo deq ositakao
逢が もう 出て いましたか。

Y hai de ositado doqsai
はい。 出て いましたよ、 たくさん。

M e: ata imo huqcunke ikanna sumanci omotaqdo-
ええ 私も 逢つみに 行かなければ いけないと 思うのだ。

Nkaran kora mo gaqcui iqkote iqdahimoha:N
けれど、 ほんとに 一向 行けません。

Y hai
はい。

M sosisiq⁶⁰⁾

Y uton haman o:⁶¹⁾
大当の 浜の ね、

M hai
はい。

Y ueNmoiga do·hikoden deq ondo⁶²⁾
上のあたりが どれだけでも 出て いますよ。

M e: zjahika ahikoataja
ええ、 そうですね あそこあたりは。

Y ahikonmoja
あそのあたりは。

M ahiko(at)aja hiataiga jokande na:
あそこあたりは 日当たりが いいですから ね。

Y hai
はい。

M e: mo sangaqno seqga cikazuqmosita na:
ええ、 もう 3月の 節句が 近づきました ね。

Y hai
はい。

M ata imo hajo site o: an dagomo kodomonimo
私も 早く して ね 団子も 子供にも

okuqte jaranna sumantaqdonkara omo oi koqba-
送って やらなければ いけないのだけれど 思っている ことば

gkaide iqkote gaqcui kane:mohanna korana:
かりで 一向 ほんとに 叫びませんよ ころ ね。

Y hai
はい。

M omansataka iqden sen site iqga.naijande joka-
あなたがたは いつでも そう して 行け ますので ね。よろし

ndo:N mo iqgoro cukuijahikao dagowa:
いですが いつ頃 作られますの 団子は。

Y dago na:
団子です ね。

M hai
はい。

Y sangaqno senno jaqpai hini cuqmohannara na:
3月の 節句の やはり 日に 搦きませんなら ね。

M sangaqno a(N)hino miqkan hini cukuijahika
3月の あの日の 3日の 日に 作られますか。

Y hai
はい。

M atainanda kodome okuranna sunmohandena:
私なんか 子供に 送らなければ いけないですから ね。

Y hai
はい。

M ciqta hajo cukuqte:
少しは 早く 作って、

Y hai
はい。

M anmai nuku naraN uci hajo: ano okuihanna
あまり 暖く ならない うちに 早く、 あのう 送りませんと

uemandogao:
腐りましょう。

Y hai
はい。

M soide iqga jokaqhjara mo hajo jomogimo toi-
それで いつが よいやら、 もう 早く 蓬も 取り

ke ikanna suman sumanci omokatade na:
に 行かないと いけない いけないと 思いながら ね。

Y hai
はい。

M mata taqkosanniden togte moremohannara o:
また 辰子さんにでも 探って 貰いませんなら ね。

site ano mata hajo okuimohanna hora ju:biN-
そして あのう また 早く 送riませんなら ほら、 郵便

kjoqga mo iqdoki naqte: dagon jamaga deke-
局が もう 同じ時に なって 団子の 山が 出来

monde hara na:
ますから ほら ね。

Y hai
はい。

M kocucunga iqdoki nanseba: omansataka doke-
小包が 一度に なりますと。 あなた達は どこへ

zja okuijahantona
も 送riなさらないとですか。

Y okuimosito: ataidomo ko:beni
送riますの、 私たちも 神戸に。

M ko:bese: okuijahika
神戸へ 送られるのですか。

Y imoqga hai itaq onde
妹が はい、 行って いますから。

M e: minna jorokuqbjande na:
ええ みんな 喜ばれますから ね。

Y ha:i ma: dagoga iqban joka cumo(N)de hora na:
はい。 まあ 団子が 一番 よい といひますから ほら ね。

M ha:i sosite o:
はい。そして ね、

Y inakan a:ziga dete:
田舎の 味が 出て。

M hutekoq' cukuijahika dango:
たくさん 作られますか 団子を。

Y ha:i ma nisubaqkai
はい、 まあ 2升ばかり

M nisubaqkai
2升ばかり?

Y hai
はい。

M mo ataja kotosa'na: kodomoga nanninmo decjo-
もう 私は 今年は ね、 子供が 何人も 出ていま
Nde gosubaqkai cute
すので 5升ばかり 携いて、

Y bojo
おや

M hajo dago: site okuranna sunmohangaci
早く 団子を して 送らなければ いけないと。

Y wazeka:
大変なこと。

M mata se:donkara⁶³⁾ taqkoni tanonde o:
また そうだけれど 辰子に 頼んで ね、

Y hai
はい。

M kozuqde⁶⁴⁾ morotai nai(sitai)senna sumanto goan-
つき叩いて 貰ったり、 なにしたりしなければ いけないの で

sa sora
すよ それは。

Y kozuqkataga nohimohanna:
つき叩くのが たまりません ね。

M ha:i zjaqcumondo: mo ataja mo……
はい。 そうだそうですよ。 もう 私は もう……

Y (temamega) deketai
手豆が 出来たり

M hai naigoq cueba taqkosaN taqkosaN cute
はい、 何事 ていえば 辰子さん 辰子さん といって、
taqkonibaqkai cukuq moroto goande
辰子にばかり 作って 貰うの ですよ。

Y ha:i
はい。

M kotohidoma waga teo kakete cukuraNna sūma—
今年あたりは 自分の 手を かけて、 作らなければ いけな
Ngato omote na:
いと 思っ ね。

Y cuqga naijahikao
搦くことが できますか。

M hai cuqga nahito: omanSa ciqtozuqden.
はい、 搦け ますのよ あなた 少しずつでも。

(65)
Y gotemo kanawan goq naijando hora
腕も 叶わない ように なられますよ ほら。

M Nmaka dago jande na: sangaqno seqno dagowa:
うまい 団子 ですから ね、 3月の 節句の 団子は。

Y ha:i
はい。

M minna jorokude kodomon-siga maqcjionsao
みんな 喜んで 子供の連中が 待っていますよ。

Y jahigana:
そうですよ ね。

M hai
はい。

5. 八百屋さんと一婦人との対話

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

H 林 達郎 男 大正6年生 商業 既出

M 前田 ナツエ 女 明治42年生 / /

解説：男は町や部落のいろんな役員で忙しい中から八百屋を開店している。新まいだ。仕入れ先の枕崎と往復することも多い。枕崎の百姓たちと顔見知りになり好意的によい野菜類を世話してくれる。女は新商売について何かと注意や激励のことばを投げかける。実生活の対話が7で演出が3である。

M taqja: N konniciwa:
達ちゃん、今日は。

H ha konciwa
はあ、今日は。

M kjuwa mo makurazaki⁽⁶⁾ itaq kijasitakao
今日は もう 枕崎に 行って 来られたの。

H o ima itate modoq kitabaqka:i
おお、今 行って 戻って 来たばかり。

M e:
ええ。

H kesawa na
けさは ね

M hai
はい。

H ciqta hajo ita mon jaqde sora
少しは 早く 行ったもの だからね。

M e: mata naika kai iqkjaqtanso
ええ、また 何か 会に 行かれるんでしょう。

H ……(g) aq cui na mo isogasuite omaja kjuwa
ほんとに ね、もう 忙しくて あなた、今日は

mata hi:kara sora ano naika ho:genno naika-
また 昼から あのう 何か 方言の 何か

ga aq cijai mon jaqde
が ある と言われる もの だから。

M ha:i
はい。

H hoidemo kesa omaja hacizinkorowa ma: son
それでも けさは あなた、 8時の頃は、 まあ その

mae tamago toikemo ko:rena⁶⁷⁾ ikanna sumahi
前に 卵 取りにも 小浦には 行かなければ いけないし

jaqtade na
だったから ね。

M hai
はい。

H tamago toike itate sosite mo: sora atai mo:
たまご とりに 行って、 そして もう それは 私 もう

jase koke: iqdetekara: mo: tege: siqcjaqka-
野菜 買いに 行き初めてから もう 大概 78か月

geq naqta mon jaqde na
に なった もの だから ね。

M hai
はい。

H mo: mukon hjaqsjon joka tokoi siqcjoqtaq cio
もう 向うの 百姓の よい ところを 知っているのよ。

M e: site joka mon cua
ええ、それは よい ことだわ。

H soka na:… zu:ci ikeja na
そこへ ね、 ずっと 行けば ね、

M hai
はい。

H do:sikode^N aqtaqcio
どれだけでも あるんだよ。

M e:
ええ。

H soide: kesa hajo itate ima modoq kimosita
それで 今朝 早く 行って 今 戻って 来ました。

M mo sonna: hon^Nsjoka uq^cjeq oqte kwai kwai cju-
もう それなら 本職は 打ち 置いて 会 会 と言っ

te nen^zu kwaibaqkai ita oi^jaq^tadeci eq^cja^N-
て 年中 会ばかり 行って おられて 悦ちゃん

mo muhine mo^N jansao: wageba:qkai rusubanba-
も かあいそうな 者 ですわ。 自分の家ばかり 留守番

qkai site:
かり して、

H u:^N soide minna sen ija:taqdonkaran omaja
うん、 それで みんな そう 言われるんだけど あんた、

sijo:wa nakadeja sora oiga ken: senna na:
仕様は ないんだもの。 私が こう しなければ ね。

M ha:i
はい。

H dakara⁽⁶⁸⁾ ma: okagesa:de: mo ima:saqmo juta
だから まあ お蔭様で、 もう 今先も 言った

goq na: makurazaqdemo: si:ega deketai site o:
ように ね 枕崎でも 知り合が 出来たり して ね。

M ha:i
はい。

H aqci urouro koqci urouro senzi na zikanga na
あっちへ うろろう、 こっちへ うろろう しないで ね、 時間が ね、

mihikosite⁽⁶⁹⁾ ikea mo iqki: son si:rega nai
短くて。 行けば もう すぐ 仕入れが 出来る

mo^N jaqde ma son tenna konogora ciqta nareq
もの だから。 まあ その 点は このころは 少しは 馴れて

kimosita:

来ました。

M mo ciqta narejasitakao

もう 少しは なれましたか。

H ha:

はあ。

M sosite gen jahikao. kjabecuwa mada newa saga-
そして どんな ですか。 キャベツは まだ 値は さが

imohankao

りませんか。

H konogora ci:qto sagaqta

この頃は 少しは さがった。

M dohiko simohikao

いくら しますか。

H ima na ima guramude: so: na: ataiga uqta

今 ね、今 グラムで そう ね、 私が 売った

70)

tokja ma: goenkara rokuen cu tokoi jaqdo
時は まあ 5円から 6円 という ところ だよ

omaja

あなた。

M soidonkaran jaqpai mada hitog-kaeba nanzju-

そうだけれど、 やはり まだ 一つ 買えば、 何十

enci simondogao:

円で しますでしょう。

H sora suqto: omaja omosa jara sora sonta

それは するのよ あんた、 重さ だよ それは、 そいつは。

M ataja kjabecuga suq jaqdonkara anmai taqka-

私は キャベツが 好き だけれども、 あまり 高

kara tamoiga naran

ければ 食べることが 出来ない

H anna

あのね。

M hai
はい。

H ataimo omaetaqno sen ijaigato mote: makura-
私も あなたたちが そう 言われると 思っ、 枕崎

zaki itate aN hjaqsjon-sikara ko: toka na:
に 行って 百姓の連中から 買う 時は ね、

jaqpai o waga teni kakaqte na kaika jonato-
やはり ね、 自分の 手に さわって ね、 軽い ようなの

kara omaja meq kuqtqdo:
から あんた 持って 来るんだよ。

M e:e
ええ。

H ataidonga meq kuqta omaja iqban kaika taqdo
私なんか もって 来るのは あなた、 一番 軽い のだよ。

M kaikata oman sa nakaga meq orande nmo naka-
軽いのは あなた、 中が 巻いて いないから うまく ないの

tan sa sora
ですわ。

H N:nja sono ka:i na
いいえ、 その 代りに ね、

M hai
はい

H oiga juqkasuqde⁷¹⁾
私が 教えるから

M hai
はい。

H mecjoranci
巻いていないとて、

M hai
はい。

H cja:nto anta ataiga meq kuqta na: aN-sini
ちゃんと そいつは 私が 持って 来るのは ね、 あの連中に

ki:te suqtaqde na ko: haqpa o ki:jaq toka
聞いて するのだから ね。 こう 葉っぱを 切られる 時は

na ja:rasika: sono joka aqno kjabeq jaqtaq-
ね、 やわらしい よい 味の キャベツ なんだ

do omaja
よ あなた。

M e: aN na: makurazaki iqkjaqta toka sora
ええ あの ね、 枕崎に 行かれた ときは ほら

kacuobu'sio moqte kijaqta mo oboejasitadogao:
経節を もって 来なさることは もう 覚えなされたでしょうね。

H a:
はあ。

M omaNsa: a hara: aN makurazaqko:cja cute ju:-
あなたは ほら あのう 枕崎紅茶 といつて 有

meide nonde mijanse riputonnan do joqkaN
名で、 飲んで みなさい。 リプトンなど よりが

do:hikoci Nmaka taqde
どれだけか うまいの だから。

Hsentoga doke aqtokao
そんなのが どこに あるのかい。

M N: na makurazaki omaNna ko:cjaga a:N ko:ba-
うん ね、 枕崎に あなた、 紅茶が あのう 工場

ga aqtan de hara
が あるんです ほら。

H e:
ええ。

M ahikokara moqte kijareba uruimo uruqtando
あそこから 持って 来なされば、 売れるも 売れるんですよ。⁷²⁾

H Nnja sora mo: sitaN moN zjaqta:
いや、 それは もう 知らない もの だった。

M minna na: mijagenja hara makurazakiko:cja
みんな ね、 土産には ほれ 枕崎紅茶

cute moqte iqkjaqtande
だって 持って 行かれるんだから。

H e: so:na
ええ、そうなの。

M ha:i koke daseq iqkjanseba⁷³⁾ hora
はい。ここに(店に)出して 置かれれば ほれ。

H sora dosikobaqkai suikao
それは いくらぐらい するのかい。

M hitogga na: ano komanka kanga nihjakueN
一つが ね、あのう 小さい 罐が 2百円

jaNdo:
ですよ。

H e: so:na
ええ、そうなの。

M ha:i jadon taekonandomo jokohamase: modoq
はい。うちの 妙子なんかも 横浜へ 戻る

⁷⁴⁾
toka iqso aiba to:baqkai tojodasanni tanon-
ときは、いつも あれを 10ばかり 豊田さんに 頼ん

de kote moq iqtatdo:
で 買って もって 行くのよ。

H so: e: sa: ataja sitannaqta sa: kondó: mata
そう ええ、それは 私は 知らなかったよ。 今度 また

⁷⁵⁾
asaqte: iq goq naqde sa maqgasiraniden ita-
あさって 行く ように なるから 町頭にでも 行っ

te tanneq mirannara na sora joka kocu juq-
て 尋ねて 見なければ ね。それは よい 事を 教え

⁷⁶⁾
kasejaqta
て下さった。

M riptonnanndojoka na: ataja makurazaqko:cjan
リプトンなんどより ね 私は 枕崎紅茶の

hoga dohikoci Nmaka
方が どれだけか うまい。

H ha ma aigato goasita anta mo:
 はあ まあ、ありがとう ございました、そいつは もう。

M na imokaimo oboejahanna:
 何もかも 覚えなさらなきゃあ。

H zjato ho:nde na:
 そうよ。 それで ね。

M ha:i sinmaisana jaqde hai
 はあい、 新まいさん だから

H joka kocina na.
 よい ことには ね。

M jasa imo atarahikato moq kite jasui jahanna
 野菜も 新しいのを もって 来て 安く 売りなさらなければ
 na:
 ね。

H ha: jasuuqto
 はあ、 安く 売るよ。

M joka huni juqkasugtaqde
 よい 様に 教えてやるんだから。

H soide na:
 それで ね。

M hai
 はい。

H anaqcyan na: nai jaqdon jokado omaja,
 あのう 夏ちゃん ね。 何 だけれど いいぞ あなた

ataja doke itaten motete na:
 私は どこへ 行っても もてて ね。

M ha:i
 はあい。

H hoide nahikon e ike kokon obasan no oman-
 それで ね、 あそこの 家に行けば、 この 小母さんが 「あなた

sa dokon hutonaci ijaqde na
 は 何処の 人なの」と言われんで ね。

M hai
はい。

H N tokorowa dokoden jokataiga obasan ci:te
うん。「処は どこでも 良いのだよ、 おばさん」 と言って

katareba na e anna an nizinna na ahikon
語れば ね、 ええ あのね、「あのう 人蔘は ね、 あそこの

uci iqkjarea ahikon uqnotoga jokatoga goan-
家に 行きなされば、 あそこの 家のが 良いのが ありま

do cjute na mo doqko sokoi ikeja juokasejaq-
すよ」と言ってね。ね。 もう どこ そこに 行けば、 教えて下さるん

taqcio hoide iken jarokai na omo nanden
もの。 それで どう だろうか 私も たしか

hjoqto sureja nigo:ka sango:ka deketakamo
ひょっと すれば、 2号か 3号か 出来たかも

sirendo omaja ora mo sita:ndo
知らないぞ あなた。 私は もう 知らんぞ。

M jaqtaci mo: sen uka uka site iasaino kusa-
そうだった たって もう うか うか して 野菜の 腐

renado cukamasarengeto site
ったのなどを 掴かませられないように して、

H wojo wojo
おや、 おや。

M hajo modog kijahanna saqsato iqkjasitatokja
早く 戻って 来られなければ さっさと 行かれた時は。

H Nnja senkoq⁷⁸⁾ sen kocja sento ataja na hoide
いいえ。 そんな 事は せんよ 私は ね。 それで

itatoka na: ken juto jase koke itate iqban
行った時は ね、 こんなに 言うよ。 野菜 買いに 行って、 一番

ataiga na: imademo ko: an-sikara jorokobare
私が ね、 今でも こう あの速中から 喜ばれて

oqta na: ma: itate nigiran koq
いるのは ね、 まあ 行って 値ぎらない こと。

M bojo
おや。

H ma negiran koq sosite na: sinamnga aqde⁷⁹⁾
まあ 値ぎらない こと。そして ね、 品物が

areja na: mo obasantaci obasantaq sora
あれば ね、 小母さん達に 「小母さん達よ、

80)
omaetaqno wagadoga uijaqtaqde ataja kote
あなた達が 自分自分 売られるのだから 私は 買って

iqtaqde mata kora ano okjaqsanni urana
行くのだから、 あのう お客さんに 売らなきゃ

81)
sumantaqde obasantaqno son jokaci omojaqto:
いけないのだから 小母さん達が その 良いと 思われるのを

ataigate ziqkirobaqkai irejai na: ataja mo
私の分に 10キロばかり 入れなさい ね。 私は もう

sinamonna erande omataci makasurai cieja
品物は 選ばないから、 あんた達に 任かせるよ」と言えば

na:
ね。

M hai
はい。

H kaecja an-sino na
却て あの連中が ね、

M hai
はい。

H sideromodoro site na:
しどろもどろ して ね。

M hai
はい。

82)
H mo zeqtai waikata jaijara^N na: jaqpai na
もう 絶対 悪いのは やりなざらない ね。 やはり ね、

wagadoga kaoni kakaqcjoqde na
自分たちの 顔に かかっているから ね。

M hai
はい

H jokato: jaraqcio hoide na
いいのを やろうかいて ね。

M jaqpai o: negi: okjaqsa:nja hara <H Nnja>
やはり ね、ねぎる お客様さんには ほれ

a^N jaqse^Nto: jaro goq ai mo^N jaqde na
あのう 駄目なのを やり たく あるもの だから ね。

H zjaqtaqci hoide na mo: sinamo^Nga nakagoto
そうだね。 それで ね、もう 品物が なく

nareja na: ke^N hutomo oijaqtado igdonanka
なれば ね。 こんな 人も おられたよ。 一度なんか

na ataja nizi^N koke itaja hoiga nakaqtadeja
ね、私は 人蔘 買いに 行ったら それが 無ったんだもの

sa: hoide na so^N obasanni obasa:^N nizi^Nna
ね。 それで ね その おばさんに 「おばさん、人蔘は

kjuwa nakagtatoka cutana. ziki na sokoatai
今日は 無かったのか] と言ったら、すぐ ね、そこらあたり

ko: mimaesite (oi)jaqtaqtaga..... huro^{siku}
こう 見廻わして おられたんだが、 風呂敷を

ko: akete na hai ozisanno bunna koke nizi⁸³⁾
こう 開けて ね、「ほれ おじさんの 分は ここに 人蔘

ha toq aqde koi moqte iqkjai cute jaqpai
を とって あるから、これを もって 行きなさい] と言って

soide na huto^N mae jarea na kakusete itate
それで ね、人の 前 だから ね、隠して 行って

toqte kurejato:
探って くれなさるよ。

M o waqze ninkiga joka mo^N zja⁸⁴⁾
おお、ひどく 人気が よいらしい

H a: aigate coq zjaqci o soide na makurazaqga
ああ、ありがたい 事 だ よ。それで ね、枕崎が

konggora tanosu naqta: ataija
このごろは 楽しく なったよ 私は。

M a n n a n i z i n n u k e j a q t o q m o d a i k o n n u k e j a t o q -
あのね、 人蔘を 買いなされる 時も 大根を 買いなされる 時

m o h o r a s i n n u a k e q m i t e t o : g a t a q c j o i k a
も ほれ、 苳を あけて 見て とうが 立っているか

t a q c j o r a n k a
立っていないか

H t o : c u w a n a i k a o
とう というのは 何かい。

M s i n a m o n n u j o k a h u n i m i t e k e j a h a n n a :
品物を よい あんぱいに 見て 買いなさらなきゃあ。

H t o : c u w a n a
とうというのは？

M t o : g a t a q o q c i h o r a a n a i o : s i n n i h a n a g a
とうが 立って いる ほら あの あれよ。 苳に 花が

s e q t o k a d e q a n d o g a h a r a
咲くのが 出て いるでしょう ほら。

H s i t a n n a o r a s e n t a :
知らないわい、 私は そんなのは。

M k a b i g a d e k e t e d a i k o n n i k a t o : n a q t o g a a q t a n -
かびが 出来て 大根に 堅く なるのが あります

d e s e n t o m o s i r a b e t e j o k a h u n i m o q t e k i j a n s e
から、 そんなとも 調べて よい 具合に もって 来なさい

n a :
ね。

H e s o n n a : m o ⁸⁵⁾ a n - s i s e n k o n d o i t a t o k a j u w a n -
あの連中に そんなに 今度 行った 時は 言わな

n a r a o m a j a s o n o t o : n o t a q t a t o : j a i j a n n a
きゃ あなた、 「その とうの 立ったのを 下さるな

s o r a c j u t e n a :
そら」 と言って ね。

M j o k a s i n a m o n n o m o q t e k i j a h a n n a s o s i t e j a s u
よい 品物を もって 来られなければ、 そして 安く

u i j a h a n n a
売られなければ。

H n a n c u : t a c i n a j a q p a i a n - s i m a k a s u r e j a n a
何と 言ったって ね、 やはり あの連中に 任せれば ね、

j a q p a i n i n g e n j a q d e j a s a : n a w a r i k o c j a d e -
やはり 人間 だもの そらね。 悪い ことは 出

k i r a r e n t a q d e o
来なさらん のだもの。

M z j a s i t o n a :
そうです ね。

H h o i d e n a s o n : m a k j u k i t e a s i t a k o n n i n g e n -
それで ね、 そのう 今日 来て 明日は 来ない 人間

z j a n a k a t a q d e s a :
では ないのだから さ。

M h a i
はい。

H m a : t a i q t a q d e j a s a n a :
また 行くのだ もの ね。

M h a i
はい。

H h o i d e i t a t e a k u : h i n a s o n k o n c u g i i t a t o q
それで、 行って 翌日 ね、 この 次に 行った 時、

o b a s a n o m a j a k o n m a e n t a m o q t e i t a j a o m a j a
「おばさん あんた、 この前のは 持って 行ったら あんた、

a g e n g w a n t a r e : j a i j a q t e c i i e j a n a o b a s a n t a -
あんな 粗末なのを くれなさって」と 言えば ね、 おばあさん達

q m o e q s e n t o g a m a z i q o q t a k a k o w a m o g o b u r e -
も 「えっ そんなのが まざって いたか。 これは 御無礼

s a : g o w a s i t a d o s o n o k a : i k j u w a n a m a n i w a -
さま でしたよ。 その 代りに 今日 は ね 2把

baqkai ohanNa kuruqde na te ijaqdo jaqpai
ばかり あなた 呉れるから ね』と 言われるよ やっぱり

omaja
あなた。

M e: hanao moqte kijaq tokimo: kignohanamo
ええ、花を もって 来られる 時も、 菊の花も

mo sutzibanao moqte konzi ciqta cubuqno
す枯れ花を もって 来ないで、 少しは 蕾の

jonato jokato: moqte kijahanna
ようなのを、 よいのを もって 来られなけりゃあ。

H soi:ga sen wake ikantarai mijai⁸⁶⁾ an-siga na
それが そんな わけに 行かんの だね。 あの連中が ね、

cja:nto wao cukuqcorai mon jaqde na:
ちゃんと 輪を 作ってられる もの だから ね。

M e:
ええ。

H baqtai ikanto eja narantaqdeo sa
さっぱり だめ。 選ぶことが できないんだもの ね。

M hoide konda sutaibana jaq cute makesase
そして 今度は す枯れ花 だ と言って (値を)負けさせて

kijaranna sumantando:
来られなきゃあ いけないんですよ。

H o: makesa⁸⁷⁾ sa: makesasuqtona: makesasuqtaqdo-
おお、 負けさせるのなら、 負けさせるのだ

Nkaran uq toka hutoqnede uqtade oiga mokewa
けれども、 売る 時は 同じ値で 売るのだから、 私の 儲けは

huto naqtaqdo omaja sen sijareja
大きく なるよ あなた。 そう しなさんと。

hoide na naqcjan ma: jokaga ataiga na dai-
それで ね、 夏ちゃん、 まあ いいさ。 私が ね、 だい

tai: moqte kuqta sogenna ma:ci⁸⁸⁾ omote ataja
たい 持って 来るのは そんなには まあと 思って、 私は

jaqpai zisinno moqte kuiga na hoide: joka-
やはり 自信を もって 来るよ ね。それで いい

taiga
のさ。

M anmai zisinbaqkai moqcjaqtaci
あんまり 自信ばかり おもちになっても、

H ma sorja……
もう それは

M jaqsentō: ura⁸⁹⁾ an uicukerarejaqtando:
駄目なのを あのう 売りつけられなさるんですよ。

H ma N toqdoka sen koqmo nakatomo ientaqdon
まあ うん 時々は そんな ことも ないとも 言えないが

na ma: dokon……
ね。まあ どの

M jareci
(話を)やれと。

H de jaqtokana⁹⁰⁾
で、 やるのかな。

M 笑い

H soide ma: jaqpai nan cutaci: nai goanga mo:
それで まあ やはり 何と 言ったって 何 ですが、 もう

sora hitozukiai cju:ndesukane:⁹¹⁾ sen nanseja
それは 人づき合い と言うんですかね。 そう なりますと

na ma jaqpai an-simo: rjo:sinteki simonde
ね、 やはり あの連中も 良心的に しますから

na honnokote waqze: ataimo omansataqno
ね、 ほんとに 大変。 私も あなた達が

i:jaqtato: ki:te mata mukon-sini mo zenzen⁹²⁾
言われるのを 聞いて、 また 何うの連中に (もう 全然

sora mo: nancjutacja ataja siro:to jaqtaqde
そら もう) 何と言ったって 私は 素人 なんだもの

sa: na:
それ ね。

M hai zjasito: na:
はい。 そうですね。

H hoide son cumoide na uqkakareja hora mukon-⁹³⁾
それで その 積りで ね ぶち当たれば、 ほれ 向うの

simo baqtai ikarenga ha:
連中も 全然 動きがとれないよ。

M soide hakusainandao: kudarimonoto a kudari-
それで 白菜なんかね、 (下りものと あっ 下り

mono kudaimondo:⁹⁴⁾
もの) 下りものと

H hai
はい。

M ano makurazaqno zinomonta nedanga cigemohika:
あのう 枕崎の 地のものとは 値段が 違いますか。

H zenzen cigemohi na:
全然 ちがいます ね。

M cigemohito:
違いますの?

H hakaikara cigaimasuga hai:
秤からが 違いますよ。 はあい。

M e: jaqpai zinomonga taqkato gwahika
ええ、 やはり 地のものが 高い のですか。

H takaidesune:⁹⁵⁾
高いですね。

M hai
はい。

H sora mo tako goansa
それは もう 高い ですね。

M soino hoga atarasjuhite oisikandona:
その 方が あたりしくて おいしいです ね。

H hai
はい。

M cukemoNnanka suq toka cito tako goansai
漬物なんか する ときは 少し 高い ですね。

H a: soide na: mo an: cukemoNni sijaq toka
ああ、それで ね、 もう 漬物に なさる ときは
mo kudaimonde jokansai
下りもので よろしいですよ。

M hai
はい。

6. 祝儀：孫の誕生をよろこぶ

録音日時 1966年11月20日

録音場所 笠沙町片瀬金宮荘
(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居 住 歴)
S	坂上三太郎	男	明治40年生	漁業	0~16才在郷, 21~23熊本市(兵役), 24~27在郷, 28~37下関市, 38~現在 在郷
F	坂上フク	女	43年生	農業	0~16才在郷, 17~20鹿児島市, 21~34大阪市, 34~現在 在郷

解説：近所の老女に孫が出来た（他郷で娘が出産）ことをきいて、祝いに来た老人が、自分も早く孫の顔を見たいが、息子が結婚するようすもないので困っている。羨しい限りだと言えば、老女は早く孫の顔をみせに一度帰郷してくれればなあと願う。男いう：待つあいだが楽しみである。

S koncjagoasita:
今日は。

F (ko)nciwa:
今日は。

S makote kjuwa joka hijoi goasi
ほんとに 今日 よい 日和 です。

F joka tenki gozando na:
よい 天気 です ね。

S mo: ohanjada: magodonmo Nmarejaqtaci
もう あなたのうちは 孫さんも 生まれなされたとか。

F hai okagesa:de
はい。 お蔭様で。

S sa: joka koq goasita
それは よい こと でした。

F⁹⁶⁾ jorokuq kata goansa kora
よるこんでいる ところ です。

S otokonko jaqtatokaci:.....
男の子 だったのかい。

F i:ja onagonko.....
いいえ。 女の子。

S onagonkona
女の子です?

F hai
はい。

S e: sora mata N: mo onagonko konroroma ona-
ええ。 それは また 女の子 今度なんかは 女

gonkode cio:do joka tokoi zjaqta:
の子で ちょうど よい ところ だった。

F hai ma: ici hime ni taro:tokaci ijan de hara
はい。 まあ 一 姫 二 太郎とかと 言われますから、ほら

na:
ね。

S jaqto na: sora mo: joka koq jasita:
そうだ ね。 それは もう よい こと でした。

F okagesa:de gaqcui joka koq jasita
お蔭様で ほんとに よい こと でした。

S e: hosite minna ojako tome genki aiq jaq...
ええ そして みんな 親子 ともに 元気で あら れて

F ha: i genki aq cumondo:
はい、 元気 だ そですよ。

S a: sora joka coq gowahi na: e: atainandomo
ああ、それは よい こと ですね。 私なんか

kora mo: magomo hohika goq(ai) ziki jaqdoN-
これは もう 孫も 欲しい ようにある 時機 だけ

ka:
ども。

F na:
ですね。

S ataigenanda mo nanzja dekemohan na kora
私の家なんか もう 何にも 出来ませんよ よ ほれ。

F ma: son uci joka hiton oijansodai hora
まあ、その うちに よい 人が おられるでしょう。

S ma: mo oreba jokataqdonkaran mo:
まあ、もう いれば 良いんだけど も。

F oijasito
おられますよ。

S soikara: nai ja na: mo
それから 何 だ ね もう。

F gaqcui hajo: magon curamo miroqo aqto goa-
ほんとに 早く 孫の 顔も 見たいのです けれ

ndonkaran kora hanare onseba gaqcui
ども 離れて いますと ほんとに。

S zjahiga atainandomo mo mago magoci mo: omo-
そですよ。 私なんか もう 孫 孫って もう 思

cjoqdon makote: Nmareta iqqageqka iqqageq
っているけど ほんとに。 生れた 1か月 1か月、

Nja iqqageqzja naka ma: mukaicjuqga kitaka
いや 1か月では ない まあ 一誕生が 来たか

konkaci ju: kodomoga atai rokuzu: sugita
来ないかと いう 子供が 私に 60才 過ぎた

ningenni ozisan cjumosai⁹⁹⁾
人間に おじさん と言いますよ。

F so: desuka¹⁰⁰⁾
そう ですか。

S agento kikeja mo: haraga kikiqjara mo:¹⁰¹⁾
あんなのを 聞けば もう 腹が 立つやら もう

gennakajara mo nancjueba jokaka mo: ataiga¹⁰²⁾
恥ずかしいやら もう 何と言えよ よいか もう 私が

kokora: mo: honni cjuraga maqke naisikobaq-
心は もう ほんに 顔が 真赤に なるほど

kai ahigao
ですわい。

F e: na: hai mata jomezjo: mihikeq jaijahanka¹⁰³⁾
え、ね、早く それ 嫁さんを 見つけて 上げなさないか

omaijedomo mata¹⁰⁴⁾
お宅もね。

S aqde na: sogeN omocjoqtaqdonkaran ohanna
なるほど ね。 そう 思っているけれども あなた

honninga omaja: motoci kiga nakaja na:
本人が あなた 持とうという 気が なければ、 ね、

ojaga dohiko mote mote cjutareci aimo naka-¹⁰⁵⁾ ¹⁰⁶⁾
親が どれほど 持て 持て と言ったとて、 ない

si jaqkena mon: jaimosai jononaka cjuwa na:
し、厄介な 物 ですわい。 世の中 というのは ね。

F waga mihike oijaqtandodai hora
自分が 見つけて いられるのでしょう ほう。

S a: mihike oqtonara mihike oqci jute teganden
ああ、見つけて いるのなら 見つけて いると 言って 手紙でも

kurureba jokataqron makote tegandemo omaja
呉れれば よいのだが。 まことに 手紙でも あなた、

ikesite¹⁰⁷⁾nojan kokoro ko sitasici na: muka-
どうしても。 親の 心 子 知らずで ね。 昔

hino-sin juwaiga
の人々が 言われるよ。

F mo: ikuci naijaqtake
もう いくつに なられたの。

S mo: jagaq sanzuga ciko narogocjaqdon wa:go-
もう やがて 30が 近く なるようだが、 我が子

ga tohimo joka anbe sitanto: kazuimu jubu⁽¹⁰⁸⁾
の 年も よい あんばいに 知らんよ。 数も 指を

iqpon iqpon oqte mitemo kanzetoransiko jai-
一本 一本 折って 見ても 数えきれないほど で

mosa kora.
すよ。

F na: hajo joka hito: nai sijaranna suman
ね、 早く よい 人を 何 なさらなきゃあ いけない。

S a: genka ko: omaetaqmo joka anbe
ああ、どうか こう あなたたちも よい 具合に、

F hai
はい。

S uzekenni¹⁰⁹⁾ mimaede ki: cukecjoqte na:
大世間を 見廻して 気 つけていて ね。

F hai
はい。

S mosi kora kon kowaci ju: jona koga oq toka:
もし これは この 娘はって 言う ような 娘が いる。 時は

ma: ai¹¹⁰⁾ jaqdonkaran.
あれ だけれども、

F hai na:
はい。 ね。

S tanonmonde na: ki: cukeqçjog kurejai
頼みますから ね、 気を つけていて おくれ。

F hai kio cuke onga na:
はい。 気を つけて いますよ ね。

S honnokote ojani naqte mireja na: honni nan-
ほんとに 親に なって 見ると ね、ほんとに 何
tomo iwaremohanga
とも 言えませんよ。

F e:
ええ。

S hai
はい。

F so: na:
そうです ね。

S soide: naija na: do: ¹¹¹⁾ omaijada konda sannin-
それで 何だ' なあ、 あなたのうちは 今度は 3人
mena hutaime
目ですか、 2人目?

F mada haime jasito:
まだ 初め ですよ。

S ha himeqna
初めてですか。

F hai
はい。

S e:
ええ。

F iqdo curete kite misenkaci jug jaqtandoNkaran
一度 連れて 来て、 見せないかと 言って やるんですけど
na:
ね。

S ha: i
はい。

F jaqpai wagataqga cugoga waikatandodai
やはり 自分たちの 都合が 悪いのでしょうか。

S ha ha:
は はあ。

F modogte kimohanai kora
戻って 来ませんのよ ほれ。

S e:
ええ。

F huN
うん。

S ma: soizja ma: kakaecja tanosun: ma:na.
まあ、 それでは まあ、 かえって 楽しみ まあね、

mitesimaeba naimokaimo omaja aketesimaeba
見てしまえば、 何でも あなた、 開けてしまえば、

mo sohikon koq akuimadega e naino monmo
それだけの こと。 開けるまでが どんな ものも

tanosun jagtaqde omaja na:
楽しみ なんだから あなた、 ね。

F denendoma curiq modog kija naja simohanjaro
来年あたりは 連れて 戻って 来られは しませんだろうか。¹¹³⁾

S a: sora joka koq ja na:
ああ、 それは よい 事 だ ね。

F hai
はい。

S atainandomo mo: sento: kikeja urajamasusite
私なんかは もう そんな事を 聞けば うらやまして

mo
もう。

F iqki jasito: sen ijai uci:
すぐ ですよ。 そう 言われる うちに。¹¹⁴⁾

S e: iqki cju:toga na: iqki: mata omaja sin
ええ、 すぐ というのが ね。 すぐ また あなた 死ぬ

jona kote nareja cjoq sime jaga
ような 事に なれば おしまい だよ。¹¹⁵⁾

Fwaika hose: toi jaqtaci.....
悪い 方へ 取りなさったって.....

S soinara mo ma: ohanmo sehikejaqdonkaran
それでは、 もう まあ、 あなたも お忙しいですが。

F hai
はい。

S mo: kjuwa ma: koide goburesa: simohide
もう 今日は まあ これで 失礼 しますから。

F aigato mosagemosu.....
ありがとう ございます.....

S ma: daizi: site na:
まあ、 大事に して、 ね。

F hai
はい。

S mo: honni joka koq jasita:
ほんとに よい こと でした。

F

S ma: jorosu minnani
まあ、 よろしく みんなに、

F hai
はい。

S ijaq tamohi
言って 下さい。

F aigato mosagemosita
ありがとう ございました。

S (soi)zia do:mo
それでは どうも。

7. 地名伝説

録音日時 1966年11月20日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
S	坂上三太郎	男	明治40年生	漁業	既出
F	坂上フク	女	43年生	農業	〃

解説：笠沙町内に祓川橋という橋がある。その祓川というのは昔はいも洗い川と呼ばれていた、その「いも」とは衣裳の意である。昔木花咲耶姫が衣裳を洗っているところに、ににぎの尊が天降って来て姫に求婚されたのであったが…。姫の衣裳洗いに困んで衣裳洗い川というべきだが、昔は衣裳を「も」と呼んでいた。そこでいも洗い川が変化して祓川となったと。

(調査者言う、勿論無理な説明、ことに話中に喪服の「も」と「裳」とを混同している)

S a n n a :
あのね。

F h a i
はい。

S a : h o n n o m a n t a k e s a : o
ああ、その 野間岳様よ ね。

F h a i
はい。

S n o m a n d a k e s a : n i j a n a a : n i c u h a s i r a c u t e s o n
野間岳様には ね、あ、う、五つ柱 と言って

g o n i n m a c u r a r e c j o t a q c u r o n n a :
5人 祀られて居られるんだと 言うが ね。

F e :
ええ。

S a t a j a s o i b a s o n g o n i n n o u c i : m a : g o n i n s a : n
私は それを 5人の うちに まあ、 5人様の

uci minna son: gonintome namaewa siqcjoraN-
うち みんな その 5人ともに 名前は 知っている

donkaraN na:
んだけれ どね

F hai
はい。

S ima son konohanasakujahimeci ju: ijai hito¹¹⁶⁾
今 その 木花咲耶姫と 言う 言われる 人

na:
ね。

F hai
はい。

S son kami¹¹⁷⁾ onagon kansa: o
その 神は 女の 神様 てね。

F e:
ええ。

S son onagon kansa:ga son ma: son kansa:kara¹¹⁸⁾
(その 女の 神様が その 神様から)

imaN ko:raN aN: meganebahi o
今の 小湊の あの めがね橋 よね。

F hai
はい。

S ma imaN haraikawabasi cjuwa(rai) hara hara
まあ 今の 葎川橋 と言われる、 ほら ほら

na aN kawaga¹¹⁹⁾ no: zu:qto son uen hoga zjo:rju:-
ね。 あの 川の ずっと その 上の 方が 上流

no ho:ga na:
の 方が ね。

F hai
はい。

S e: mukasja: son imoaraigawa cju kawa iaqta-
昔は 何も洗い川 という 川 だった

taq cjudeo sora na:
と言うから ほら ね。

F e:
ええ。

S hosite son imo cjuto son wagaroga ku: na:
そして その いも と言うと 自分らが 食う ね。

F hai
はい。

S karaimozia nosite:
薩摩芋では なくて、

F hai
はい。

S isjo: sora iso na:
衣裳 ほれ 衣裳 ね。

F e:
ええ。

S isooba son konohanasakujahimeno aru oijaq-
衣裳を その 木の花咲耶姫が 洗って おられ

tataq cjude o son an kawano zu:qto ueN ho-
たと いうから ね その 川の ずっと 上の 方

de zjo:rjuN hode na:
で、 上流の 方で ね。

F hai ha-i
はい。 はい。

S hositaja soke son ma niniginomikotoga e:
そしたら そこに ¹²⁰⁾ ににぎの尊は

amakudari site kijaqte hjoqkoi kite na:
天降り して 来られて ひょっこり 来て ね。

F hai
はい。

S hosite a: omaja oiga ome: naqte kurenacaci
そして 「あなたは 私の 妻に なって くないか」て

F hai
はい。

S i jaqtaqci¹²¹⁾
言われたとさ。

F hū
うん。

S (ho)sita tokoiga ma: otoqcianni: kite mira-
そうした ところが お父さんに きいて 見なけ

Nna ataiga hitoizja henziya deken cite
れば、 私が 一人では 返事は 出来ない と言って、

F hai
はい。

S hosite son ma: oto:sanni kiqkjaqta tokoiga
そして お父さんに きかれた ところが、

ma. jokaroci ju jona hude na:
まあ よかろうと いう ような 次第で ね

F hai
はい。

S hosite ma: a: hutaino-siga ma hu:huni naqte
そして まあ 二人の人々が 夫婦に なって

jaqpai sokon nomandakesa:ni macjurarejaqtataq
やはり その 野間岳様に 祀られなされた

cjudeo sora na:
というんだよ ほら ね。

F e:
ええ。

S hosite son toqno ma: naiga: soikara son ma
(そして その 時の まあ 何が それから その まあ)
¹²²⁾

isooba aru oijaqtare son ataimae wagen koto-
衣裳を 洗って おられたら、 当り前に 自分たちの 言

bai ieja isoarugawa jaqtaqdonkaran na:
葉で 言えば 衣裳洗い川 なんだけれども ね。

F hai hai
はい はい。

S mukahino-sa son ai¹²³⁾ isononi ja¹²⁴⁾ moci jugoijaq-
昔の人々は 衣装には もと 言って
tataqdeo sora na:
おられたんだ 物 ね。

F e: hai hai
ええ、はい はい。

S imoci na
いもと ね。

F hā
はい。

S hoide son mohukuci¹²⁵⁾ jaqpai imademo hara ko:
それで も服って やはり 今でも ほら こう
gozemuken toq jaqtoka nai jaqtokaci ju jona
結婚式の 時 だとか、 何 だとかと いう ような
agen ba:inija ko¹²⁶⁾ mohukuci ma joson-sja:
あんな 場合には も服と よその人々は
ijaqto hara na:
言われるよ ね。

F hai ijarai na:
はい。 言われる よね。

S so:N tame a: ma mo¹²⁷⁾ jaqpai ma: imademo jaq-
その ため やはり まあ、 今でも やは
pai cutawaqte kita kotoba jaqci omoga na:
り 伝わって 来た 言葉 だと 思うだが ね。

F ha:i
はい。

S e: soikara son a imoaraigawaga omaja: ano
それから 芋洗川が あなた、 あのう
imomo oqtorete: araimo¹²⁸⁾ a¹²⁹⁾ araiga kondo hara-
いもも 落ちて、 洗いも 洗いが 今度 祓

ini naqte
いに なって,

F e:
ええ。

S hosite haraika: zi naqte na:
そして 祓い川と なって ね。

F hai
はい。

S hosite are haraikawabasic i mazja jutaqcju-
そして あれ 祓川橋と 今では 言うんだという

ron na:
けれども ね。

F e:
ええ。

S soide omaja: ano: imarea sora haraika: basi
それで あなた, あのう 今では 祓川橋

cju:ronkaran so: ju: jo:na ma: iwareno ai
と言うけれども。 そう 言う ような 間まあ, いわれの ある

jaqpai ka: jaqtaq cjudo omaja:
川 だった そうだよ あなた。

F e: sositena
ええ, そして(どう)ですか。

S ha:i soide na: jaqpai atainandomo na: imo
はい。 それで ね やはり 私なんかも 何にも

kangenzi oqdonkara jaqpai kogen site muka-
考えないで いるけれども, やはり こんなに して, 昔

hino kocjuba naikai taguijose te kitai mitai
の ことを 何かと 手繰り寄せて, 来たり 見たり,

zu:qto site mireba jaqpai na:
ずっと して 見れば, やはり ね。

F ha:i
はい。

S aN meZurahika moNmo aqtai
あのう 珍しい ものも あったり、

F zjaqto na:
そうですね。

S honnokote na: cute biqkuisui jona koqmo
「まことに ね」 と言って、びっくりする ような 事も

aqto na:
あるよ ね。

F (zja)Nsai na:
そうですわ ね。

S jaqpai wagen atai aqte: asaban micjoreba
やはり 自分の家の あたりに あるのに 朝晩 見ていると、

nantomo kangendon
何とも 考えないけれども、

F ha:i
はい。

S jaqpai ko: ma: rekisiN jona monnu sirabete:
やはり 131) 歴史の ような ものを 調べて

mi:iai-sja na:
見られる人々は ね。

F hai
はい。

S jaqpai oho: kora: na:ci juté jaqpai a:ci
やはり 「ほう、これは、 ね」 と言って、やはり ああと

omo koqmo ai wake jaqto hora na:
132) 思う ことも ある わけ だよ ほら ね。

F na:
そうですね。

8. 網主の奥さんと漁夫

録音日時 1966年11月20日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
M	前田ナツエ	女	明治42年生	商業	既出
S	坂上三太郎	男	40年生	漁業	〃

解説：片浦近海では雑魚がとれる。雑魚は鰹釣りに最高の餌であるところから、県内はもちろん県外からも餌買いに網主のところ泊りがけでやってくる。一日漁が少なかった漁夫の報告をきいて奥さんが苦情やら激励やらをのべる。次の隔夜には漁があろうし、海も水温が高まろう等々のべがんばることを誓うのが漁夫である。生簀にすべき籠は新しく漁を予想して多く到着するのに、漁がおっつかないのは残念だと奥さんが言えば、漁夫は籠に耻かかないようにうんとがんばりますなどいう。〔この演出は女(話し手)が網主の娘さんとして育って来たので、昔の我家のあり様を思い出してのことである。今は往時のように雑魚がとれなくなって餌買い人が集まる賑やかさは見られない。〕

S oqsaN ima jaqta:
奥さん、今 だった。

M jaqto jaqta na:
御苦労 かったですね。

S ai(ga) togowasi
ありがとう。

M dare jaqtadoga o:
お疲れになったろうね。

S ha: mo
はい、もう。

M zakowa genna koq jasitakao
雑魚は どうな こと でしたか。

S zakoga na: joka zako jaqdonkaran uhika mon¹³³⁾
雑魚が ね、よい 雑魚 だけれども 薄い もの

jaqde
だから、

M e:
ええ。

S jaqto roq¹³⁴⁾ kago roqpon
やっとな 籠 6本、

M e:¹³⁵⁾
ええ。

S aqtaga mijai¹³⁶⁾
あったよ 御覽。

M sora mo seN koq cuwa nakaqtana:
それは もう そんな 事 って 無かったわね。

S konnjadoma mata naqmo jokade na:
今夜なんか また 風も よいから ね、

M hai
はい。

S konnja: konnja: tanosunni siorannara sumaN-
今夜は 今夜は 楽しみに していなければ いけな

gaci minnade kowa huneN-simo ju kata jahiga
いと 皆で くら 船の連中も 言っている ところですよ。

M e: ciqto kibaqte toijaranna na:
ええ、少し 精出して 獲らなければ ね。

S ha:i zjaqto na:
はい、そうです ね。

M edoken-siga do:sikoden kiq oijaqde na:
餌買いの連中が ずいぶん 来て いられるので ね。

S e: sora mo
ええ それは もう。

M mo nikenaga qacui ikiransiko
もう 二階には 実際は 入りきれないほど。

S

M zju:goroqniNkara kiq oijaqde na:
15,6人も 来て おられるんで ね。

S e: e
ええ、え。

M soide ano ciqto kibaijaranna, sumaN
それで あのう 少し 頑張らなさらなきゃ いけない。

S hai sora mo: gaqcui hutoi jaqte hutoi jaraN
はい、それは もう、ほんとに 一人に やって、一人に やらんと

137)
zju wakena- ikansi ohantaqmo komaijai kote
いう わけには 行かないし、あなた達も 困られる ことです

na:
ね。

M ha:i jando:
はい、そうですよ。

S mo: genka jaqpai hiqbiku sui goqate na:
もう 何だか やはり ひいきを する ように あって ね。

aN hutobaqqai jaqte cju:te na:
あの 人にばかり やって と言って ね。

M hai
はい。

S hoide mo: atainandomo iqsjokenmei naq oqta-
それで もう、私なども 一所懸命に なって いるの

138)
hide konniadoma jokansodai
ですから 今夜こそ よろしいでしょう。

M mo ken site gaqcui edoken-simo ohikakete
もう こう して ほんとに 餌売の連中も 押しかけて

kijareba na:
来なされば ね。

S a:i
はい。

M doke jaizaqmo¹³⁹⁾ nosite: otoqcjanmo sinpai
どこに やり先も 無くて お父さんも 心配

sijaqde na:
なさるから ね。

S zjando na:
そうですね。

M ciqto kibaqte
少し 精出して。

S hai
はい。

M hi:baide¹⁴⁰⁾ site toijarandokai na
昼の操業でも して (魚を)とられないだろうか ね。

S hai zjaqto: honnokote na: maciqto naqga
はい、 そうよ。 ほんとに ね、 も少し 罎が

jokaja hi:bai sureba mada nihonden sanbonden
よければ、 昼の操業 すれば まだ 2本でも 3本でも

na: toren cju koqmo nakataqdonkaran aqcja:
ね とれないと いう ことも 無いのだけれども、 あちらは

gen jaqtadokai na kon kaigatanhen¹⁴¹⁾na torenta-
どんな だったろうか ね この 海濁のあたりは (魚は)と

Ndojo na:
れないでしょうよね。

M kaigataga soide toren cute koqcise: neqkara
海濁が、 それで、 とれない といつて、 こっちへ みんな

ohikakete kijatataqde na:
押しかけて 来られたんで ね。

S e: ha:i
ええ、 はい。

M doko jaqtaka ju:be taq kijaqta tokoja
どう だったか、 昨夜(火を) 焚かれた 処は。

S ju:bea aqci urebenka¹⁴²⁾ta jasitato
昨夜は あっち、 浦辺の濁 でしたよ。

M e:
ええ。

S ahikomo na: jaqpai mataN jaNni nareja ahi-
あそこも ね、 やはり 又の 闇に なれば、 あそ

kon zakowa katamaqt aqdoN na: 143)
この 雑魚は かたまるのだが ね。

M hai
はい。

S konDon jamizuja ikenka ko: zakoga baraqci 144)
今度の 闇までは なんだか こう 雑魚が ぼらっと

siq oi jona huni
して、 いる ような 風に、

M e: sen zjahika
ええ、 そう ですか。

S ha:i sogen jona huni senzjuronnu juoraqtagao
はい。 そんな ような 具合に 船頭さんが 言っておられたよ。

M e: sosite zakowa ciqta tomahikao 145)
ええ、 そして 雑魚は 少しは のこりますか。

S a: ma: zakon kataga jokade na: 146)
はあ、 まあ 雑魚の 型が よいから ね。

M hai
はい。

S ma: jaqpai haqgowa mo: tomaroci omocjoqdon 147)
まあ、 やはり 8合は もう、 残ろうと 思っているんだが

na:
ね。

M waqze: kaqzjobunega na:
すごく 鰹船が ね。

S ha:
はあ。

M joka zaq ano i:joga mie oqci ju:te
よい 雑魚、 あのう 魚が 見えて、 いると 言って

S e: e
ええ、 え。

MkeN site ohikakete kijareba mo zakowa
こう して (餌買い人が)押しかけて 来なされば、 もう 雑魚は

torensi
獲れないし、

S ha:i
はい。

M kiga kizja gowahan na kora
気が 気では ありません よ ころ。

S zjaiga na: ataihandomo ima jaqdon kora na:
そうだよ ね。 私なんかも 今 だが ころ ね、

unto kibaqte ite ciqto iman uci toiku toi¹⁴⁸⁾
うんと 頑張って 置いて 少し 今の うちに 獲

kunde ikanna na:
り込んで 置かなければ ね。

M hai omo goto ikan mon jansa kora na
はい、 思う 様に いかないもの です ころ ね。

S ha:i
はあい。

M zako-ga doqsai aq toka hunega zuga nakasi
雑魚が どっさり ある 時は 船が 漁が ないし、

S honnokote na: erokedonno oijaran toka
ほんとに ね。 餌買い人が おられない 時は、

M ha:i
はあい。

S dosikoden zakomo torete sen site mata toren
どれだけでも 雑魚も 獲れて、 そう して また 獲れない

toqno kuseni seqkakete kite na:
時の くせに (餌買い人が)つかけて 来て、 ね。

M joka neno suq toki torenzi na:
よい 値が する 時 獲れないで ね。

S ha:i
はい。

M jaqpai omo goto iqmohaNde kora
やはり 思う ように 行きませんので。

S zjahiga honni
そうです、 ほんとに。

M ciqto kibaijaraNna sumaN
少し 精出されなければ いけない。

S hai ma kondon naqdoma mata na¹⁴⁹⁾ siku: sike:¹⁵⁰⁾
はい、 まあ 今度の 風なんかは また ね、 時化に

naikamo sirendonkaraN ma tegena: sikezuja
なるかも 知れないけれど、 まあ たいていの 時化までは

senzjuronmo mada waqkare kibaraqdoci omo-
船頭さんも まだ 若いから 頑張られると 思

cjohiga
っています。

M ha:i kibaijanse ma:
はい、 頑張りなさい まあ。

S waga koq iaqde minna na: toqtEN sjo: bai¹⁵¹⁾
自分の こと だから みんな、 獲っての 商売

jareja omaja: necjoqtaci iqsenGacimo naraN-
だから あんた。 寝ていたって 一銭ほどにも ならない

si o waga e:
し ね、 自分の家に。

M naika tarekucja: mazi: moNga siq ohikao¹⁵²⁾
何か たれくち雑魚は まざりものが して ますか。

S ija mada imaN tokoja mo: nanNja hoikuša mo¹⁵³⁾
いや、 まだ 今の ところは なんにも それこそ もう

migoqka zako na:
綺麗な 雑魚 よ。

M sora jokaga na:
それは よいわ ね。

S ha:i
はい。

M sogen joka katan zaka joka zakooba toijare-
そんな よい 型の 雑魚, よい 雑魚をば 獲られ

ba na:
ば ね。

S ha:i agen zakonara
はあい, あんな 雑魚ならば,

M waqze: joka zuga suqtaqdon na:
すごく よい 漁が するんだが ね。

S nemo jokataqdon na: agentonara mo. kondon
値も いいんだけど ね, あんなのなら もう 今度の

zakona^Nda na sa. mo: zenno kocja juwanci
雑魚なんか ね, それは, もう 銭の ことは 言わないで,

nenno kocja juwanci minna edoken-siga juo
値の 事は 言わないで 皆 餌買いの連中が 言う

goq aiga
よ だよ。

M newa kirowan cute na:
値は 嫌わな と言って ね。

S ha:i
はあい。

M gaqcui waremo saki neqkara wakeq kure cute
ほんとに 我も 先に 「全部 分けて くれ」 と言って,

S e zjanso:
え, そうでしょう。

M ijareba mo gaqcui nike oqte zakoken-simo
言いなされば, もう ほんとに 2階に いて 雑魚買いの連中も

kiga kizja naka jona hu jaqdo:
気が 気では ない ような 様子 だよ。

S ha:i soidonkaran sora hokan-sja omaja iqpo-
はい。 そうだけれども 外の連中は あなた (籠) 1

nka nihonka toraqdo atainandogaseka hiqcia-
本か 2本か 獲られるよ。 私なんどのさえ 7 8

154)
qponci toreja mo-waze:ka na
本と 獲れたので もう すごい ね。

M ha:i
はい。

S jokaqtato urehikaqtarorai
よかったよ。 嬉しかったろうよ。

155)
M e: sora mo jokaqta na:
ええ、それは もう 良かった ね。

156)
S senzjuronmo jubewa na:
船頭さんも 昨夜は ね。

M ma:kibaijai dareN goto na:
まあ、頑張んなさい。 疲れない ように ね。

S jaqpai mada ciqta cumetakaro(do)Nkan cume-
やはり まだ 少しは(海は)つめたかろうけれども、 冷

taka koqnandon juqoqtaci kangeq oqtaci
たい ことなんど 言っ いたって、 考 えて いたって、

sumaN kote wai na:
いけない ことよ お前 ね。

Munno nakan kagenmo wajkaqdode na
海の 中の 加減も 悪いだろうよ ね。

S ha:i

M zakomo tore niqkatansodon
雑魚も 獲れ にくいのでしょうか。

S jasito koiga mata unga njuqmoreba mata na.
そうですね。これがね、 海が 温まれば また ね。

157)
ano zakomo goqga ju naisi de: mo jaqpai
あのう 雑魚も 機嫌が よく なるし、 そこで やっぱり

unga njuqmoranna ninggenmade jaqpai njuqmoi-
海が 温まらなければ、 人間まで やっぱり あたたまり

mohan na kora
ません ね。

M kagomo¹⁵⁸⁾ do·hikode^N dekeq kitade na·
籠も どれだけでも 出来て 来たから ね。

S ha: ha:
はあ、 はあ。

M zakowa dohikode^N toi jaqte jokataqdo^N na:
雑魚は どれだけでも 獲られて いいんだけども ね。

S ha: zjaqto na:
はあ、 そうです ね。

M hai
はい。

S mo: mo na kagomo jaqpai haciziqpo^Nbaqkai
もう 籠も やはり 80本ばかりに

nai kocja nasita na:
なる ことは ありました ね。

M hai mo: hora mata nikatoga atokara kuqtaqde
はい。 ほれ また 新しいのが あとから 来るんだから

na:
ね。

S e: e
ええ。

M kinumo naziqponci kiq onde
昨日も 何十本と 来て いますから。

S a:
はあ。

M kjuwa mata mukansimase· son kagomo hakoqbjā-
今日は また 向江島へ その 籠も 運ばなけ

ran^Nna suman^{do}^N
れば いけないだが。

S e: hai hai sora mo:…… kagoni hazju kakan
ええ、 はい はい。 それは もう …… 籠に 耻を かかない

goto igpe kibaran^{na} sunmohan^{ga}
ように 懸命に 精出さなきゃあ いけないです。

M ma jaqto jaNsodon na.
まあ 御苦労 でしょうが ね。

S aigatogowa.s i
ありがとうございます。

M kibaija^Nse
頑張なさい。

S ha:i ho inara
はい。 それじゃ。

M sajonara darejanna
さようなら、 疲れなざるな。

S hai ma
はい。 まあ。

注

- 1) [p.6] 標準語的。
- 2) [p.6] 坂面という地区名。
- 3) [p.6] 直訳では「あなたは」である。念を押す意があり、「ね」と意識してよいところ。以下類出する。
- 4) [p.6] oqtaja (いたら) が正しいと思う。
- 5) [p.7] 軍隊用語。
- 6) [p.7] 「貰い上げて」の義。
- 7) [p.7] waigenosiwa の縮まった形。si は「衆」の訛り。
- 8) [p.8] 形容詞の基本形を助詞「も」で結ぶと、強意を示す。
- 9) [p.8] 言いまちがい。
- 10) [p.9] なお自分の言葉を続けようとしたが、相手の言葉でさえぎられ、文意がととのわない。
- 11) [p.9] 標準語。
- 12) [p.10] so: が先行すべきだが、zjaqta —を自立語として使う。
- 13) [p.11] rjo: > dzu: > dzu

- 14) [p.11] jokaqtado の訛り。
- 15) [p.11] 言いまちがい。
- 16) [p.12] 言いさし。
- 17) [p.12] 言いまちがい。
- 18) [p.13] 意味なし。
- 19) [p.13] 「燃えている」の意。
- 20) [p.14] 部落名。
- 21) [p.15] 標準語の「はい」に当たる。
- 22) [p.15] あとに「しっかりしなさい」と言おうとした。
- 23) [p.15] 唐突な感じだ。jujarea (言いなざると) のまちがいか。
- 24) [p.16] 区長たる山中氏の愛称。
- 25) [p.17] 質(たち)の義。
- 26) [p.18] 応答詞の下に mata が来たばあい。
- 27) [p.18] sezunikara > sezuikara > sezikara > sesikara > sekkara
- 28) [p.19] hamecukuq (精出す)。
- 29) [p.20] 「働いて」が原義。
- 30) [p.20] 「言って聞かせ申さんなら」の義。
- 31) [p.21] 言いさし。
- 32) [p.23] moi は「あたり・辺」の意。
- 33) [p.23] moroke の濁音化。
- 34) [p.23] 「呉れやり賜わり申さんか」の義。
- 35) [p.25] 「であり居り申したよ」の義で、過去の習慣を表わす。
- 36) [p.26] これから前部と前の男性の話の後部とが重なる。
- 37) [p.26] 標準語。
- 38) [p.27] musubi (約束・固め), musubu は目的格。
- 39) [p.27] [iddzuimo]
- 40) [p.27] magoija—, maolja— のどれかであるべきだが、あやまって—goi ~と—oi ~とが重複。
- 41) [p.27] juino:kiN の言いまちがい。
- 42) [p.27] 標準語。
- 43) [p.28] kijaqtaga (来られたよ) でなければ変だ。
- 44) [p.29] 言いさし。
- 45) [p.29] 「のしやり申すまい」の義。「のす」は「堪える」意。
- 46) [p.30] obaqsaN のようにきこえるが。

- 47) [p.30] 「近しくなって」の意。
- 48) [p.31] 言いさし。
- 49) [p.33] imadoNnota : とありがたい。
- 50) [p.33] rjo:ri > dgu:ri > dgui > dzui (料理)。前に標準語形が出たので、方音に直して発音したところ。
- 51) [p.34] 意味なし。
- 52) [p.34] 「出かける」意の敬讓語。「罷る」に「申す」のついた形。
- 53) [p.34] —ta はやや濁る。
- 54) [p.34] uq は強意を示す接辞。
- 55) [p.34] このようなばあいは単に念を押す。
- 56) [p.35] 「落ち着きやり申しつらう」の義。
- 57) [p.35] 「申し上げ申す」の義。
- 58) [p.36] 「禍」にカ語尾をつけた形。おそろしい。すごいなどの意から、副詞として大変、実にもの意にも用いるが、ここでは感動詞的。
- 59) [p.36] 縄で荒目に あんだ袋で、野菜・芋類を入れる。
- 60) [p.37] 言いさし。
- 61) [p.37] 地名。
- 62) [p.37] moi は「あたり・辺」の意。
- 63) [p.40] .soi doNkaran がそうきこえるのだろう。
- 64) [p.40] kozuq (杵でつき砕く)
- 65) [p.41] 「五体」から来ている。
- 66) [p.42] 八百屋の仕入れ先である。
- 67) [p.43] 片浦に隣接する部落名。
- 68) [p.44] 標準語形。
- 69) [p.44] 「うろろうしておられない」という言葉を省略している。
- 70) [p.45] ここでは「売るとしたら」の意。
- 71) [p.46] 「言うて聞かするで」の訛り。
- 72) [p.47] 「大麥よく売れる」の意。
- 73) [p.48] eqkjaNseba が薩隅方言としては普通。
- 74) [p.48] 「一生」から来た語。
- 75) [p.48] 枕崎の卸問屋の名。
- 76) [p.48] 「言うて聞かせやった」の訛り。
- 77) [p.49] anotowa > anta
- 78) [p.50] 言いまちがい。

- 79) [p.51] 言いまちがい。
- 80) [p.51] 敬意を含む主格助詞。
- 81) [p.51] 敬意を含む主格助詞。
- 82) [p.51] 「下さらない」の意味でいう。
- 83) [p.52] niziNbaとありたい。
- 84) [p.52] moN zjaはたしかな根拠が添っての推定表現。
- 85) [p.53] 意味なし。
- 86) [p.55] 「御覧なさい」が原義。
- 87) [p.55] 言いまちがい。
- 88) [p.55] 「高くない」という心持。
- 89) [p.56] 言いまちがいか。
- 90) [p.56] 対話をまだ続行するのかと言ったところ。
- 91) [p.56] 標準語。
- 92) [p.56] あとに「伝えよう」の意が続くべきところ。
- 93) [p.57] 「打ちかかれば」の義。
- 94) [p.57] -do: は -to の濁音化。前に標準語形が出たので、意識的に方言の訛形に言い直した。「下りもの」は鹿児島方面からくだったて来た品をいう。
- 95) [p.57] 標準語。
- 96) [p.59] 男女対話が重なる。
- 97) [p.60] ai jaq (あり なさる) がスムーズに出ないで、とぎれた形になったもの。なお「元気ニアル」という形をよろこぶ。genki の中に助詞「ニ」はとけ込んでいる。
- 98) [p.60] 古語「むかほり月」の訛り。
- 99) [p.61] 「おじいさんと言われたい」が言外の意味。
- 100) [p.61] 標準語。
- 101) [p.61] 「きり焼くやら」の義。最初のkiqは接頭辞。
- 102) [p.61] 「芸もない」からの音韻変化・意味変化。
- 103) 104) [p.61] このようなばあいの「又」は単に念を押す意。
- 105) [p.61] cjutadeci の訛り。「と言ったからとて」の意。
- 106) [p.61] お金のこと。
- 107) [p.62] どうしても「手紙を呉れない」の意。
- 108) [p.62] kazumoとありたい。
- 109) [p.62] uzekeNno 又は uzekeNno とありたい。
- 110) [p.62] 「迷惑だが」ぐらいの心持。
- 111) [p.63] 言いまちがい。

- 112) [p.64] kaは言いさし。
- 113) [p.64] 「来は成りはし申さんやらう」の義。
- 114) [p.64] 「孫ができるのがすぐだ」の意。
- 115) [p.64] cjoq は失敗しときの叫び。simai (しまう) の名詞形 sime と一緒に、一語のように使う。
- 116) [p.67] ju: を尊敬体に言い直した。
- 117) [p.67] kamiwa とありがたい。
- 118) [p.67] () は下の文意と結びつかない。話手は s0N とか soN ma: とか ja qpai とかをしきりに挿入するので、訳をつけない方がよいことが多い。
- 119) [p.67] ga は言いまちがい。
- 120) [p.68] いくぶん [ŋa] にきこえる。
- 121) [p.69] 弱い促音。
- 122) [p.69] 言いよどみ。無意味なことばが続く。
- 123) [p.70] 意味なし。
- 124) [p.70] —no— は言いまちがい。
- 125) [p.70] 喪服を連想したらしい。
- 126) [p.70] 意味なし。
- 127) [p.70] 意味なし。
- 128) [p.70] 言いさし。
- 129) [p.70] —ga は前の—mo の言い直し。
- 130) [p.71] —c が濁ったもの。
- 131) [p.72] 意味なし。
- 132) [p.72] 「感歎する」の意。
- 133) [p.73] 魚群が密でない。
- 134) [p.74] 言いさし。
- 135) [p.74] これは次の話と重なる。
- 136) [p.74] 「ね」と意識してよい。
- 137) [p.75] cju の濁音化。
- 138) [p.75] —so— がいくぶん濁る。
- 139) [p.75] 「泊める場所」の意。
- 140) [p.76] bai は網を張ること。
- 141) [p.76] 大隅半島の港名。
- 142) [p.76] 片浦から近距離の大浦瀨のこと。
- 143) [p.77] 魚群する。

- 144) [p.77] 散在している様。
- 145) [p.77] 生簀の中に入れた雑魚は半分以上も死ぬので、それを気遣っての問いである。
- 146) [p.77] 雑魚が鱈の餌に適した大きさをいう。
- 147) [p.77] 「生簀籠の8分目」の意。
- 148) [p.78] 言いさし。
- 149) [p.79] 「獲れるかも知れない」ということばが続くところ。
- 150) [p.79] 言いまちがい。
- 151) [p.79] 漁があってこそ商売は成り立つということ。
- 152) [p.79] 他の魚がまざること。鯛の小さい「たれくち」雑魚が鱈の餌に最もよいが、他の雑魚がまざると不適當なので、心配しての問い。
- 153) [p.79] nanzjaがnannjaにきこえる。
- 154) [p.81] ここでは仮定の意味でなく既然の意味。
- 155) 156) [p.81] は対話重なる。
- 157) [p.81] goqは「御機嫌」の嫌を略した形か。
- 158) [p.82] 生簀のための籠。

非 売 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区 稲付西山町